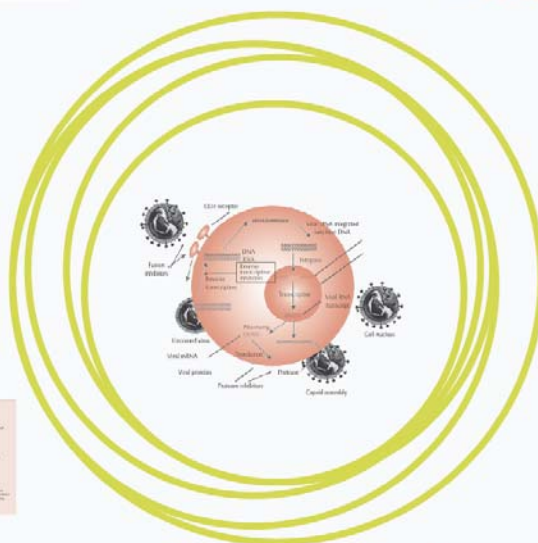
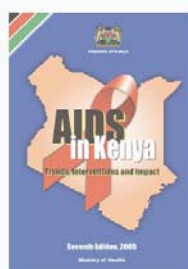


ケニア VCT センター調査報告

〔ファクトシート 事例編〕



2006 年 8 月



特定非営利活動法人

都市計画・建築関連OVの会 EVAA
Ex-Volunteers Association for Architects

はしがき

アフリカ諸国において 1980 年代後半から急激に広がるエイズ発症事例、中でもケニアは高感染率国とされ、1999 年のダニエル・アラップ・モイ政権以降、HIV/エイズを国家的災厄とし、国家事業としてその撲滅に取り組んでいる。

そして、わが国は、アフリカ HIV/エイズ対策へのもっとも重要な支援として、VCT(Voluntary Counseling and Testing：自発的なカウンセリングと検査)センターへの協力事業を行っているが、その一環として、平成 18 年 3 月 7 日から 4 月 8 日まで、国際協力機構（JICA）シニア海外ボランティアとして、当会より 5 名がケニアへ派遣された。

派遣の目的は、既存の VCT センターについて、施設計画における調査、評価、提言を行うことであった。とりわけ、施設のカウンセリングルームや待合室などの平面計画、構成、仕様について、「クライアントの視線」から、プライバシー、心理的安心感といった観点で、既存状況を分析、評価することが求められた。

調査団員は、当会からの 5 名に加え、短期ボランティア派遣による 2 名（コーディネーター業務担当）とケニアの VCT 担当局である NASCOP（National AIDS and STI Control Program）の職員 2 名、合計 9 名により、30 ヶ所の VCT センターを訪問し、実測、聞き取り調査、そしていくつかの VCT センターにおいては作業が伴った具体的な提案を行った。

帰国後、特徴的な 12 の VCT センターでの活動を選択し、施設の現状、特徴を分析、評価した上で、改善への教訓・提言をまとめたのが本報告書である。調査を行った全ての VCT センターを対象にした基礎資料としての報告書を別途まとめる機会もあろうかと考えるが、まずは短期間の派遣で得られた VCT の現状と、それらに対する建築的視点からの助言、作業内容を「ファクトシート 事例編」として示すこととした。

本書が、わが国のアフリカにおける HIV/エイズ対策への効果的な基礎資料として、VCT センターサービスの改善と強化に多少なりとも寄与できれば望外の喜びである。

最後に、本活動にかかるケニア派遣の機会をいただいた青年海外協力隊事務局(JOCV)、ケニア側での受け入れと訪問先などの手配にご尽力いただいた JICA ケニア事務所、事前に VCT センターの情報提供とともに声援を下さった JICA 竹中専門家と JICA 人間開発部感染症チームの皆様、訪問先の JOCV 隊員とカウンセラーの皆様、ケニア NASCOP 関係者の皆様に対して、ここに深く御礼を申し上げる。また、本報告書のとりまとめ及び印刷費用は、EVAA 会員による寄付で主に賄ったことも併せてお知らせするとともに、ここに感謝の意を表したい。

平成 18 年 8 月

EVAA

特定非営利法人 都市計画・建築関連 OV の会
(Ex-Volunteers Association for Architects)

理事長 今村 文明

略語表 [英文]

ABBREVIATIONS

CCC	Comprehensive Care Center
CR	Counseling Room
DASCO	District AIDS and STI Coordinator
DTC	Diagnostic Testing and Counseling
FHI	Family Health International
FPAK	Family Planning Association of Kenya
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer
KMTC	Kenya Medical Training College
NASCOP	National AIDS and STI Control Program
NGO	Non-Governmental Organization
ODA	Official Development Assistance
USAID	United States Agency for International Development
VCT	Voluntary Counseling and Testing

NPO 法人 都市計画・建築関連 OV の会 EVAA < Ex-Volunteers Association for Architects >

青年海外協力隊(JOCV)の隊員 OB、OG の職種別組織。建築設計、都市計画、地震学など、幅広い意味での建築、都市計画関連分野の有志により「JOCV 職種別 OV 会」として 1998 年に設立され、2002 年には NPO 法人となって現在に至る。OV は OB、OG の総称。

1965 年から始まった青年海外協力隊の派遣事業において、建築、都市計画に関連した分野での OV は総勢 600 名以上にのぼる。

当会会員も、20 代から 60 代までの幅広い年齢層にわたり、その中心は一級建築士などの国家資格を持ち、建築設計、コンサルタントなどの職に就く「プロ」の集団である。

それでも、現在は、建築関連の専門 OV だけにとどまらず、多様な専門性を持つ 150 名余りの会員で構成されている。

これまでに、モンゴル、ブータン、モロッコ、エチオピアなどに派遣された隊員に対して技術支援を行ってきたほか、JOCV 技術顧問の派遣、在外大使館への設計監理者の派遣、建築隊員活動事例を調査しての提言書作成、公益助成金での出版活動を行ってきた。

2005 年の「愛・地球博」では、日本トイレ協会との連携で、「トイレ探検館」を出展した。

さらに、国際協力フェスティバル、アフリカンフェスタなどの催しには毎年積極的に参加し、会の広報、他機関との意思疎通を図っている。

そして 2006 年 3 月には、本報告書のとおり、JICA シニアボランティアとして会員 5 名をチーム派遣、ケニア HIV/AIDS 対策のための施設に対して建築の面からのアドバイスを行った。

専門知識と協力隊活動での知見も加えたこの 40 年間の蓄積を用いて、途上国に対する協力や現在派遣されている隊員の方々への支援に生かすとともに、広く国際社会へ役立たせるために、草の根の市民団体として、世界との交流を広げていくことを目指している。

URL: <http://evaa-japan.org>

E-mail: info@evaa-japan.org

本報告書編集委員及び協力者(五十音順)

明坂忠治、市川達也、井原淳、今村文明、落合正仁、笠井いずみ、小泉新一、清水研、鈴木忠博、高橋美佐子、橋本慎吾、平田保次、保坂公人、高村哲、増田美樹、松村文雄、渡辺淳一

目 次

はしがき

ケニア地図

略語表 [英文]

EVAA 紹介

調査概要

1.1 調査の背景・目的	1
1.2 調査の基本方針とその方法	1
1.3 調査団の構成	2
1.4 調査団のスケジュール	2
1.5 報告書の考え方	3

あなたにできる改善アプローチ	5
----------------------	---

ファクトシート 事例編

サイト 1: Mathare VCT センター	6
サイト 2: Ngaira / Rhodes Clinic VCT センター	8
サイト 3: Nakuru VCT センター	12
サイト 4: FPAK Nakuru Youth Friendly VCT センター	18
サイト 5: Kapkures VCT センター	22
サイト 6: Kericho VCT センター	26
サイト 7: Tenwek Hospital VCT センター	30
サイト 8: Kisii Central District Hospital VCT センター	32
サイト 9: Nyaweri Deaf VCT センター	34
サイト 10: ARC Tivoli VCT センター	38
サイト 11: Bondo District Hospital VCT センター	42
サイト 12: Getembe Hospital VCT センター	46

表紙イラスト、図表は以下資料より

1. "AIDS in Kenya -Trends, Interventions and Impact"
7th edition(2005), NATIONAL AIDS AND STI CONTROL PROGRAMME (NAS COP) , Ministry of Health, Kenya
2. "VCT TOOLKIT - A Guide to Establishing Voluntary Counseling and Testing
Services for HIV" Family Health International, (2002)

1.1 調査の背景・目的

2006年3月7日から4月8日までの約1ヵ月間、国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局のシニア海外ボランティアとして、NPO法人都市計画・建築関連OV会（通称：EVAA）会員5名がケニアに派遣された。

その目的は、ケニア国のVCTセンター（Voluntary Counseling and Testing、以下「VCTセンター」とする）において、建築的視点からのクライアントのプライバシーなどに的を絞り、具体的な提言や活動を行うことである。つまり、VCTセンターを訪れるクライアントの立場から目や耳となって、建築的な提言等を行った。

ケニアにはVCTセンターは700センターがあると言われている。今回訪問したVCTセンターはケニア国西南地域の31ヵ所である（後述のスケジュールを参照）。JOCV隊員派遣や支援等でJICAとの関係が深いVCTセンターが主に選ばれた。

1.2 調査の基本方針とその方法

上記目標を達成するにあたっての本調査の基本方針は次の通りである。

クライアントのプライバシーの確保とくつろいだ雰囲気醸成を

- 調査の目的に従い、クライアントのプライバシーの確保とくつろいだ雰囲気醸成に努める。

VCTセンタースタッフとの話し合いを通じて

- 現場でのVCTセンタースタッフへの技術移転が何よりも肝要であるので、スタッフとの話し合いを重視し、その合意を得た後に具体的な事例を示した。
- また、同行のC/Pである現地調査員への技術移転も同様に重要であり、前半での経験や知見を生かして、後半の調査において、現地調査員を主体とした調査・活動を行った。

改善策は具体的かつ費用をかけずに

- 「クライアントのプライバシーへの配慮」を行う為、椅子や机、また検査キットの配置替えを提案すると同時に、実際の配置替えを行い、その効果を実感していくようにする。
- ドアの左右の開閉を変えることや紙をカウンセリング等の窓ガラスに貼ることで、十分にクライアントのプライバシーが確保できることの実例を多く提示することに努める。

良い例からの知見を学ぶ

- VCTセンターから入ってから退室するまでクライアントの動線が交差することがないVCTセンターの事例や非常に細かいとこまで配慮しているVCTセンターから学ぶことも重要である。

1.3 調査団の構成

調査団全員が調査の共通認識をもつ為、前半は調査団全員（9 名）で調査を行った。9 名とは、EVAA メンバーの 5 名に加えて、JOCV 派遣のコーディネーター 2 名と C/P である NASCOP (National AIDS and STI Control Programme) からの 2 名である（以下の団員リスト参照）。後半は、調査団を A 及び B 班に分けて、調査・活動を行った。

表：団員リスト

メンバー名		グループ	所属先
1. 松村 文雄	調査団長	A	EVAA
2. 明坂 忠治	団員	B	EVAA
3. 平田 保次	団員	B	EVAA
4. 笠井 いずみ	団員	A	EVAA
5. 小泉 新一	団員	B	EVAA
6. 橋本 慎吾	コーディネーター	A	EVAA*
7. 増田 美樹	コーディネーター	B	EVAA*
8. Kemei. J	現地団員 (C/P)	A	NASCOP
9. Zipporah. K	現地団員 (C/P)	B	NASCOP

＊：帰国後、EVAA メンバーに

1.4 調査団のスケジュール

次に本調査のスケジュールを示す。

表：訪問先リスト及びスケジュール

* 本報告所のサイト番号

日付(2006年)	*	登録番号	訪問先名	グループ
2006年3月10日		101-02	Kenyatta National Hospital VCT Center	A/B
		101-06	KICOSHEP Clinic	A/B
3月14日	1	101-17	Mathare VCT Site	A/B
	2	101-12	Ngaira/Rhodes Clinic	A/B
		101-62	KMTC Nairobi VCT Center	A/B
		101-01	NASCOP VCT Center	A/B
3月15日		704-01	Nakuru Provincial General Hospital VCT Center	A/B
3月16日	3	704-01	Nakuru Provincial General Hospital VCT Center Youth	A/B
		unknown	CCC (Comprehensive Care Center)	A/B
3月17日	4	704-10	FPAK Nakuru Youth-Friendly VCT Center	A/B
3月20日	5	704-16	Kapkures VCT Center	A
3月21日		702-01	Kericho District Hospital VCT Center	A
	6	702-14	Kericho Youth VCT	A
		702-02	Kenya Tea Packers Ltd. VCT Center	A
3月22日		102-13	Live with Hope VCT	A
3月28日		707-01	Longisa District Hospital VCT Center	A
3月29日		707-03	Bomet VCT Center	A
	7	707-04	Tenwek Hospital VCT Center	A
3月20日		607-01	Nyamira District Hospital VCT Center	B
3月21日		607-02	Ekerenyo Health VCT Center	B
	8	601-01	Kisii Central District Hospital VCT Site	B
		610-05	Oresi Municipal Health Center VCT Site	B
	9	601-08	Getembe Hospital VCT Site	B
3月22日		612-01	Gucha District Hospital VCT Site	B
3月27日		602-01	New Nyanza PGH VCT Center	B
	10	602-13	Nyaweri DEAF VCT Center	B
3月28日	11	602-06	ARC (AIDS Resource Center) TIVOLI VCT Center	B
		602-18	Tunngane Youth VCT Center	B
3月29日	12	611-01	Bondo District Hospital VCT Center	B
		unregistered	Usigu Dispensary DTC (VCT予定)	B

1.5 報告書の考え方

本報告書は基本的にはVCTセンターの実例をまとめたファクトシート集である。ファクトシート対象のVCTセンターは、今回調査を行った31カ所の内の10カ所である。その選定基準は特徴的であり、また、具体的な実例があるVCTセンターである。

ファクトシートは、VCTセンターの概要と建物とその周りの状況写真、センターのスタッフ数やクライアントに関する基本情報、「クライアントのプライバシー」に確保の

為の建築的な実例集、で主に構成されている。

今後、必要に応じて、全てのVCTセンターのファクトシートをまとめると同時に英語版や仏語版でのまとめを検討している。

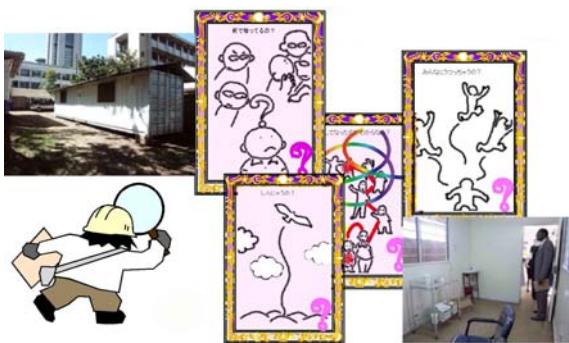
「気付きのカード」

今回の派遣が決まってから、現地でどのような建築的アドバイスをを行うかを検討した。その中で、VCTスタッフがクライアントの立場に立って物事を考え、行動するための「気付き」が必要だと感じた。

EVAА会員の一人が、「カードにクライアントの悩み、恐れ、羞恥などを描き、VCTスタッフと語り合ってはどうか」と作ったのがこの「気付きのカード」である。

現地作業の都合上、実際には使われなかったが、このカードによって派遣スタッフが今回の調査の目的とメッセージを共有する機会も得られた。

その一部を紙面で紹介する。



作者：高村哲 建築家、デザイナー

(有)ノームプランニング代表

全国の公園設計などのかたわらイラストを描く。登山専門誌『岳人』の表紙を長年担当した他、イラスト教室なども開く。

自身に関わる「バングラデシュ農村地域の衛生事情とエコ・サントイレ導入に関する研究プロジェクト」では現地の人々が自分たちでトイレ作りが出来るためのイラスト・マニュアルを描き、当会理事の保坂公人氏とともに平成 18 年 7 月、京都大学環境衛生工学研究会の優秀プロジェクト賞を受賞した。EVAА 会員

ファクトシート 事例編

サイト 1: Mathare VCT センター

サイト 2: Ngaira / Rhodes Clinic VCT センター

サイト 3: Nakuru VCT センター

サイト 4: FPAK Nakuru Youth Friendly VCT センター

サイト 5: Kapkures VCT センター

サイト 6: Kericho VCT センター

サイト 7: Tenwek Hospital VCT センター

サイト 8: Kisii Central District Hospital VCT センター

サイト 9: Nyaweri Deaf VCT センター

サイト 10: ARC Tivoli VCT センター

サイト 11: Bondo District Hospital VCT センター

サイト 12: Getembe Hospital VCT センター

■ サイト 1 Mathare VCT Site (101-17)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building :** Detached
Location: Nairobi **Constructed :** 2005
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (F-5), Receptionist (F-1), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-23 F-32 Total 55

ナイロビ市郊外に位置する公立精神病院の広大な敷地内にある。病院は一般のクライアントと精神面に問題を抱える犯罪者も受け入れている。VCTセンターは紫色に塗装されており、非常に目立つ。クライアントは外部、内部両方から受け入れており、スタッフは意欲的との印象。ドナーからの援助を受けている。



2 建築的所見での助言、改善内容

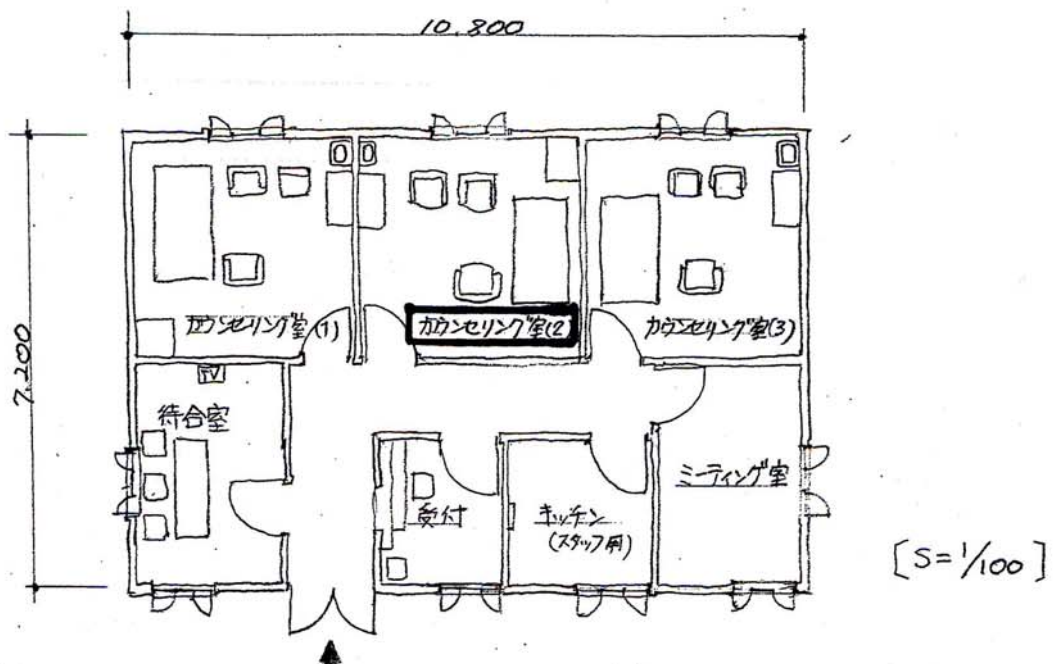
■ 事例 1 : 家具の配置変更による「クライアントのプライバシーの確保」

カウンセリング中に部屋のドアが開けられてしまうとクライアントのプライバシーの確保は難しい。その防止策として、家具の配置変更によって「クライアントのプライバシーが外部にさらされる」リスクの軽減を図った。

		BEFORE  Photo Angle 図面：ドアに対して正対している2つの椅子がクライアント用。 写真：入り口付近から CR-2（ドア開放）を見た様子。
		AFTER 図面：机、椅子を時計回りに 90° 移動、ドアの付近に大型のキャビネットを移動させた。 写真：入り口付近から CR-2（ドア開放）を見ると、キャビネットによってクライアントの顔は見えない。

Mathare VCT

3/14



■ サイト 2 Ngaira/ Rhodes Clinic (101-12) (コンテナ活用)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location: Nairobi **Established** : 2005
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (F-2)
Number of Clients (Monthly Average) : Total 120

ナナイロビ市街の幹線道路沿い、ナイロビ技術専門学校に囲まれた病院の敷地内に位置する。近くにはナイロビ駅がある。病院へは幹線道路からというよりは、駅側からの裏道が利用されている。VCT センターは小規模で、利用者は多くはない。



2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例2 :コンテナ活用による「クライアントのプライバシーの確保には目隠し

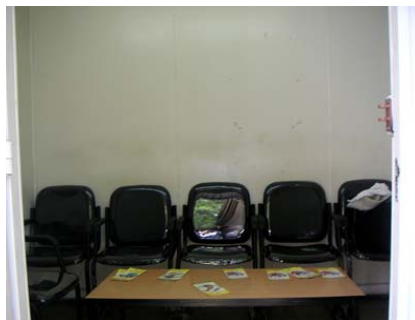
病院の待合用ベンチが VCT センターの入り口方向を向いているために、クライアントが丸見えになってしまう（平面図参照）。クライアントのプライバシーが確保の為には、その間に生け垣や何か目隠しになるようなものでできる。VCT センター側にあると、クライアントは見られているという何も気にせず VCT センターに出入りできるだろう。また、カウンセリング室の椅子の配置にも外部からの視線という点で気になる点があったので、病院側へ感想として伝えた。

VCT センターの様子

写真 : CR-1 の様子



待合室の様子

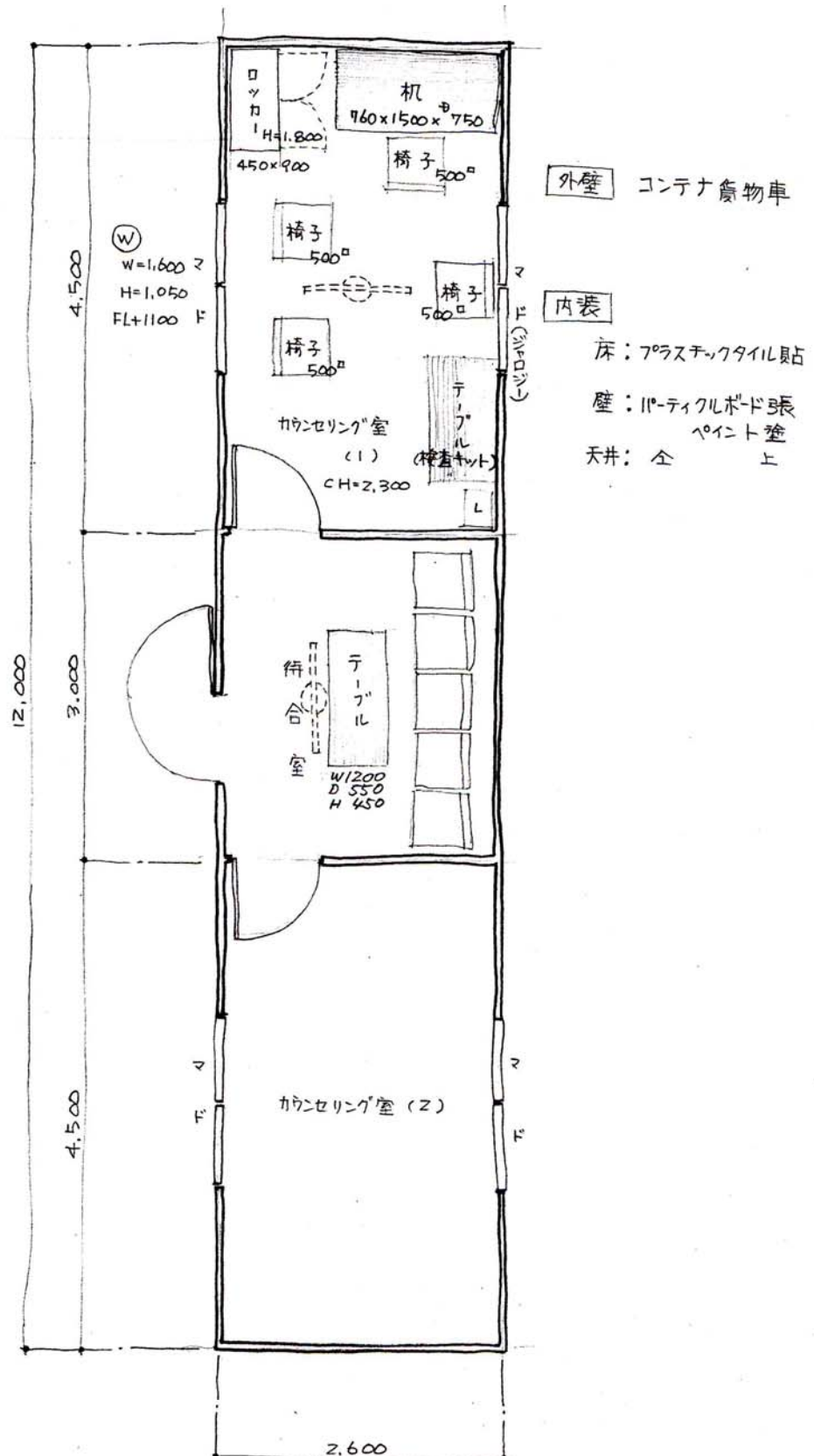


主要幹線道から VCT センターまでのアプローチ

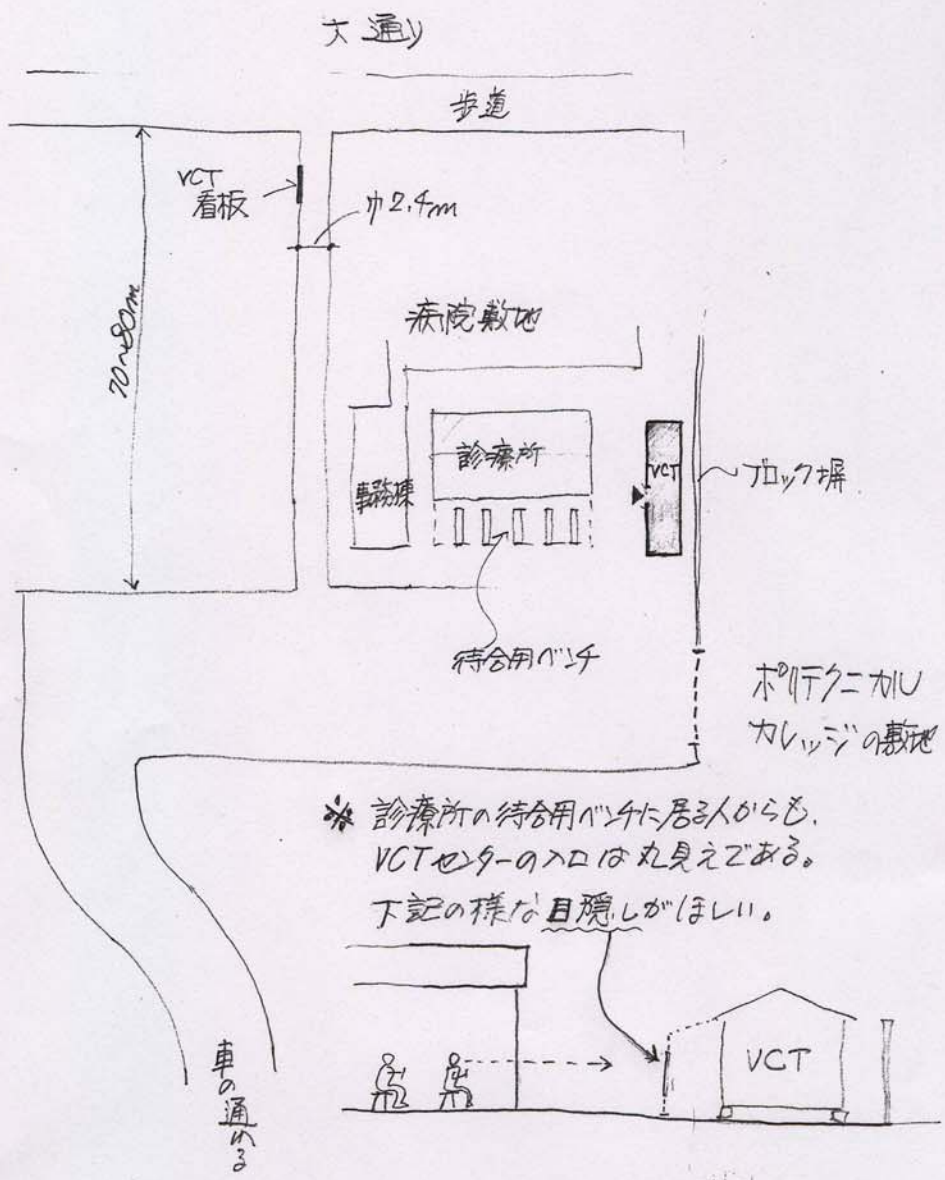


ナイロビ
Ngaira / Rhodes Clinic [S = 1/50] 3/14 (火)

041

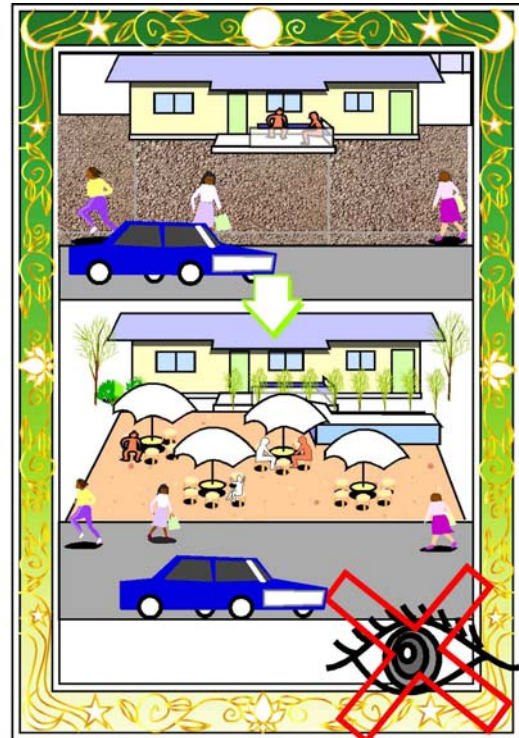


平田



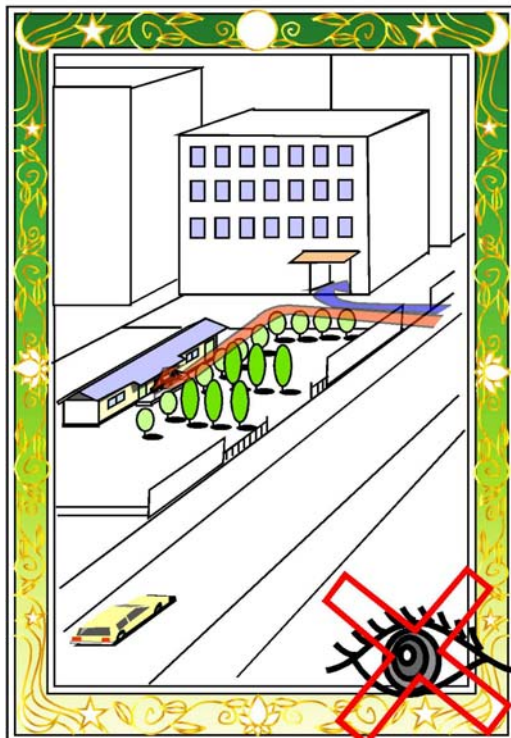
松村

気付きカード(その1)



人の目がこわい……。

こうしたらどうだろう



■ サイト 3 Nakuru PGH Youth Center (704-1)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location : Nakuru **Constructed** : 2000
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (M-3, F-5), Receptionist (M-1, F-1), Other (5)
Number of Clients (Monthly Average) : M-70 F-67 Total

ナクル市郊外に位置する州立総合病院（Provincial General Hospital）の敷地内にある。VCTセンターはユースセンター機能の1つとして位置付けられる。2年目の活動中であるJOCV 隊員は、スタッフと良好な関係を維持している。また、改修実施の対象地であったので、VCTセンターからは全面的な協力を得ることができ、調査団は基礎調査（改修の可能性、必要性の調査を含む）、追加測量、改修と3度訪問。きめ細かい調査ができた。ここではクライアントの感情を配慮した環境作りをJOCVとスタッフ間で日頃から目指している環境があったので、今回の改修もスタッフ間での話し合いを通じて、改善点を「コストゼロ」で行うことの出来たモデル的サイトになった。



2 建築的所見での助言、改善内容

■事例3 :ロケーション表示、案内板による「動線の確保」

ゲート近くにVCTセンターの存在を示す紫色の看板はあるものの、病院内での場所を示す案内看板などが無く、正面メインゲートからユースセンターへの案内板による「動線」が分かりづらい。VCTセンターという特殊性上、初めて訪れる人にとっては非常に不案内で、不安を煽る。

■事例4 :家具の配置替え、ドアの開き勝手の変更による「プライバシーの確保」

カウンセリング中に部屋のドアが開けられた場合、クライアントのプライバシーが外部に対しさらされる可能性が高い。この対策として、家具の配置変更、そしてカウンセリング室1、及び2のドアの開き勝手の変更を行った。

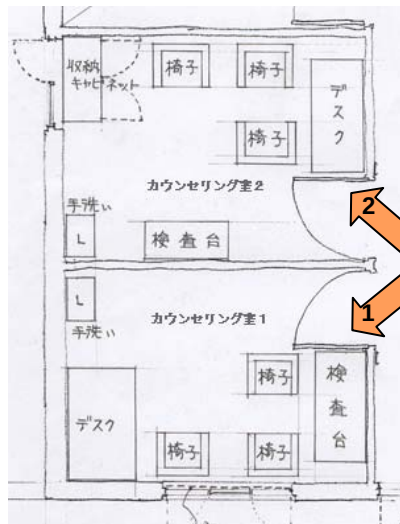
BEFORE

図面：ドア改修前のCR-1、2の平面図 Photo Angle

写真：CR-1、2のドアを開けたときの内部が見える様子

1

2



AFTER

図面：ドア改修後の CR-1、2 の平面図

写真：ドアを開けたときにクライアントの姿が見えなくなっ



作業風景

写真：左右のドアを現地のスタッフ（左）及び、調査団（右）が取り付けしている様子。既存の CR-1 のドアを CR-2 に、CR-2 のドアを CR-1 に付け替えている。



■事例 5：「コストゼロ」方針による「視線遮断」- 窓ガラスを白紙で不透明に -

カウンセリング室の窓から通路が見えてしまう。また、クライアントは外部からの視線が気になり集中できない状況であった。事実、通路から内部が見えてしまうのでクライアントの姿がさらされていた。その対処法として、曇りガラスやペイントなどが挙げられるが、コストゼロで、窓の 1/3 程度に白紙の紙を貼ることで、改善した。

BEFORE CR-1 から外を見た様子



AFTER CR-1 から外を見た様子



作業風景

現地スタッフと調査団が窓に目隠し用の紙を張る様子
（左）と窓を正面から見た様子（中央）



現地のキテンゲという布も試したが、クライアントの気が散ってしまうというスタッフの指摘により、取りやめ

■事例6 : 部屋番号の広アングル化で見やすい表示

カウンセリング室の部屋番号を表示するため、立体のサインボードを設置。通常、部屋番号などのサインボードは壁などに直接書かれることが多く、目的の部屋が探しづらい。段ボールに画用紙で飾り付ける方法により、費用をかけずに工夫できた。

BEFORE ドア上部の部屋番号



AFTER 手作りの立体のサインボード

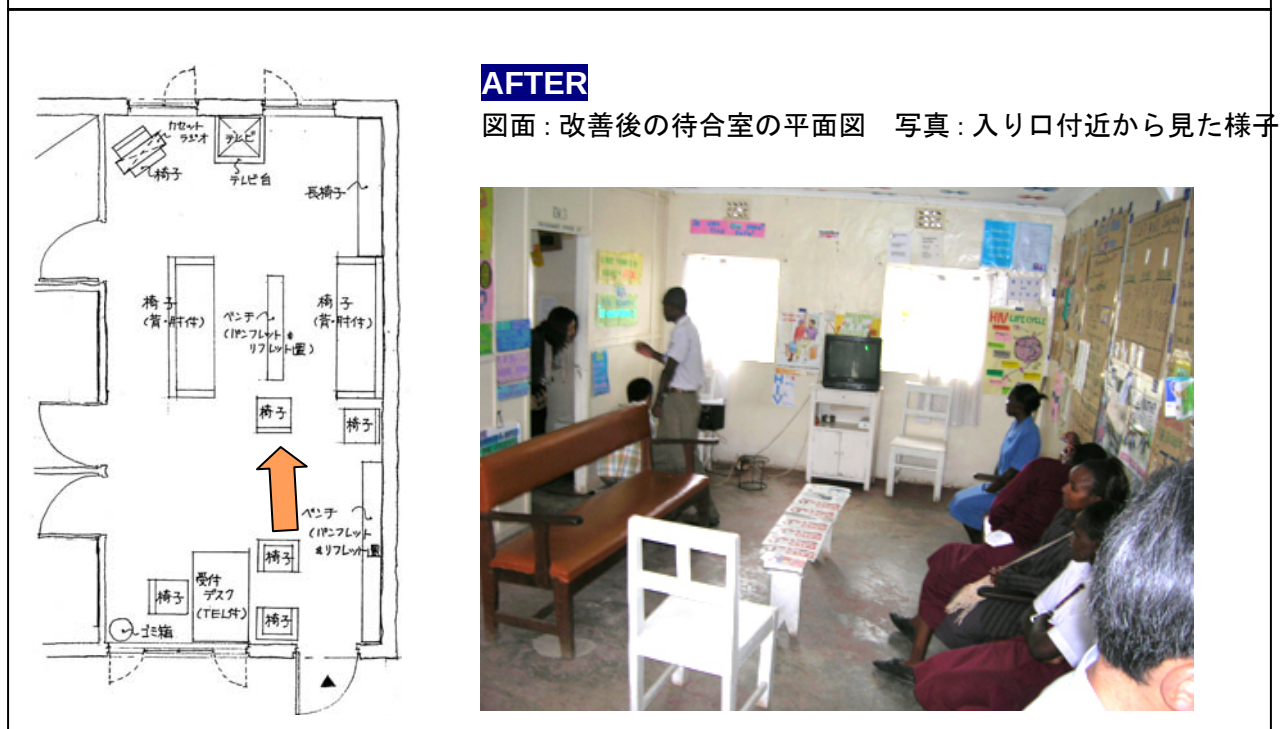
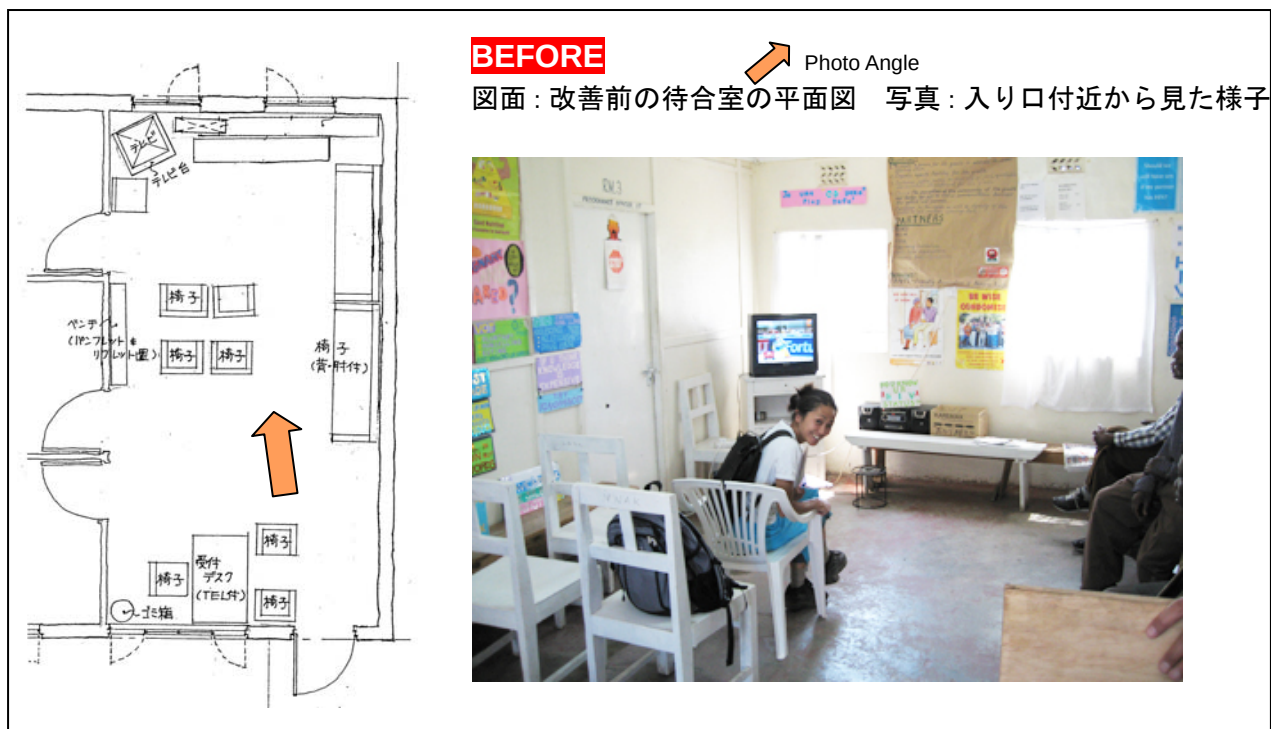


作業風景写真：調査団が見本を示し（左）、現地スタッフと共に作成し（中央）、設置する様子（右）。



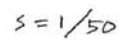
■事例7：家具の配置変更により動線及びTV、パンフレットへの配慮

事務室とカウンセリング室2との間の動線を円滑にし、待合の中央を横切る必要がないようにする為、家具の配置を変更した。その際、TVが良く目立つように中央に移動した。また、外部から人を導入しやすくなることも考慮した。背・ひじ付きの長椅子を向かい合わせに配置し、その間に別のベンチを使ってパンフレット置き場を設置した。



NPGH YC 家具設備 レイアウト 改修前

改修前

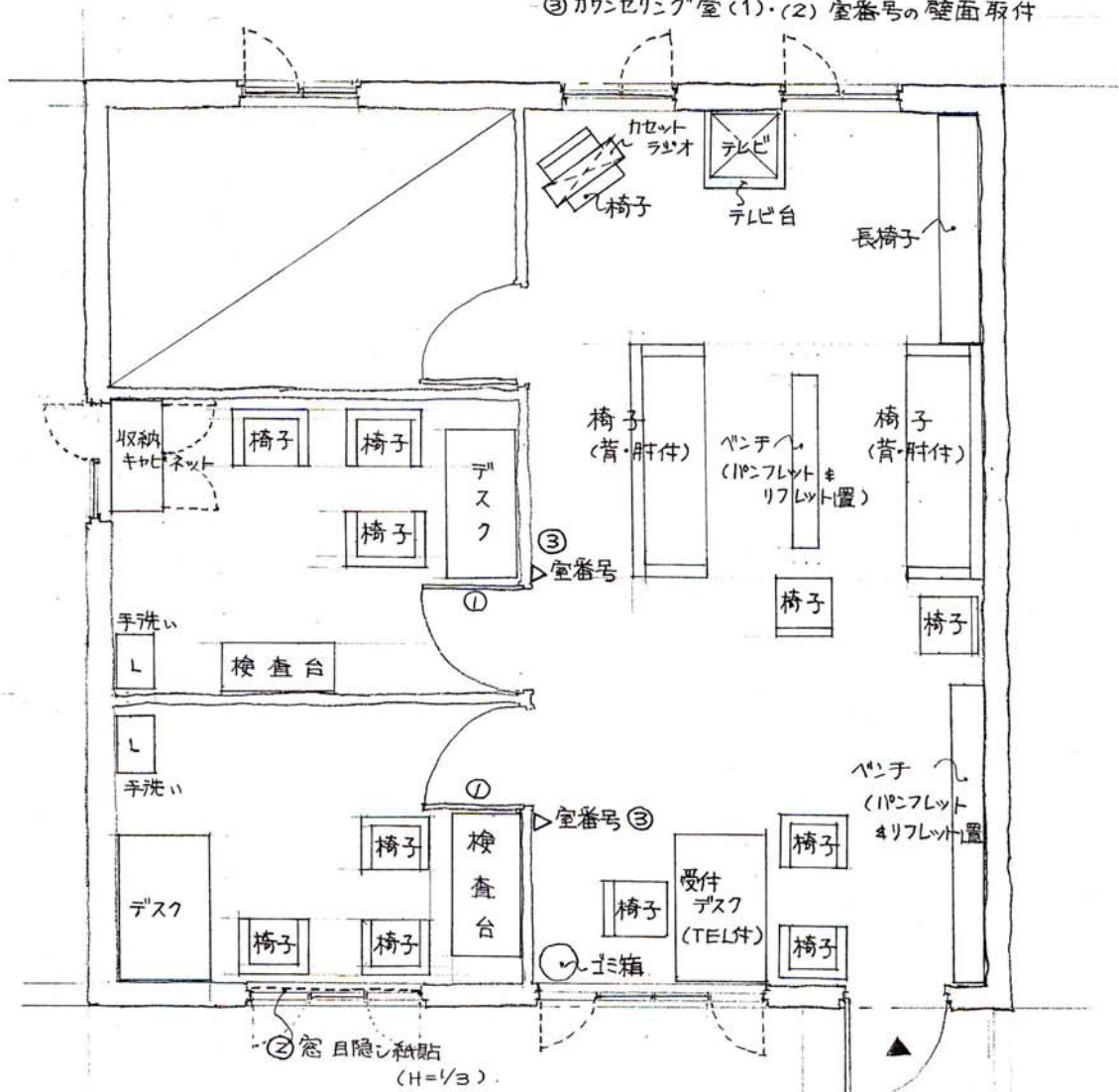


16

NPGH YC

改修後

- ① カウンセリング室(1)・(2) 扉床や勝手の変更
 ② カウンセリング室(1) 窓の内側 紙貼 (H=1/3)
 ③ カウンセリング室(1)・(2) 室番号の壁面取付



S = 1/50

平田
 笠井
 松村

■ サイト 4 FPAK Nakuru Youth Friendly VCT Center (704-10)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location : Nakuru **Established** : 2001
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 4:15 pm
Staff : Counselor (M-1, F-1), Receptionist (F-1), Other (M-1)
Number of Clients (Monthly Average) : M-160 F-128 Total

ナクル湖に程近い地域でナクル市中心部にある Family Planning Association of Kenya (FPAK) によって運営されている。これは Family Care Medical Center Nakuru という婦人科を中心とした病院の一機能である。一般と若者の患者両方を対象にしており、ユースセンターが2階にあることもあり、クライアント数は多い。フトバレー州一の数(2005年実績)を誇る。施設、スタッフ共に充実している。



2 建築的所見での助言、改善内容

■事例 8 : 婦人科一般診療があることによる「クライアントのプライバシーの確保」、車椅子進入路があれば

婦人科のある病院内にあるので婦人向け VCT センターである。そのことにより、クライアントのプライバシーが十分に確保されている。また、病院付近の生活環境は安全に不安があるので、セキュリティーには十分な配慮を行っている。3箇所ある入り口を1箇所の利用に制限することで、人の出入りをひとつの受付で把握している。VCTセンターは誰でも気軽に受けることのできるサービスという点では、このように少し閉ざされたイメージであるが、受診者の多さを考えると、この問題が少ないと思われる。カウンセリング室は家具の配置が適当だと考えられる部屋と不適切な部屋があった建物全体が少し高いので階段が多く、車椅子の利用者は不便な状況である。

VCT センターの様子

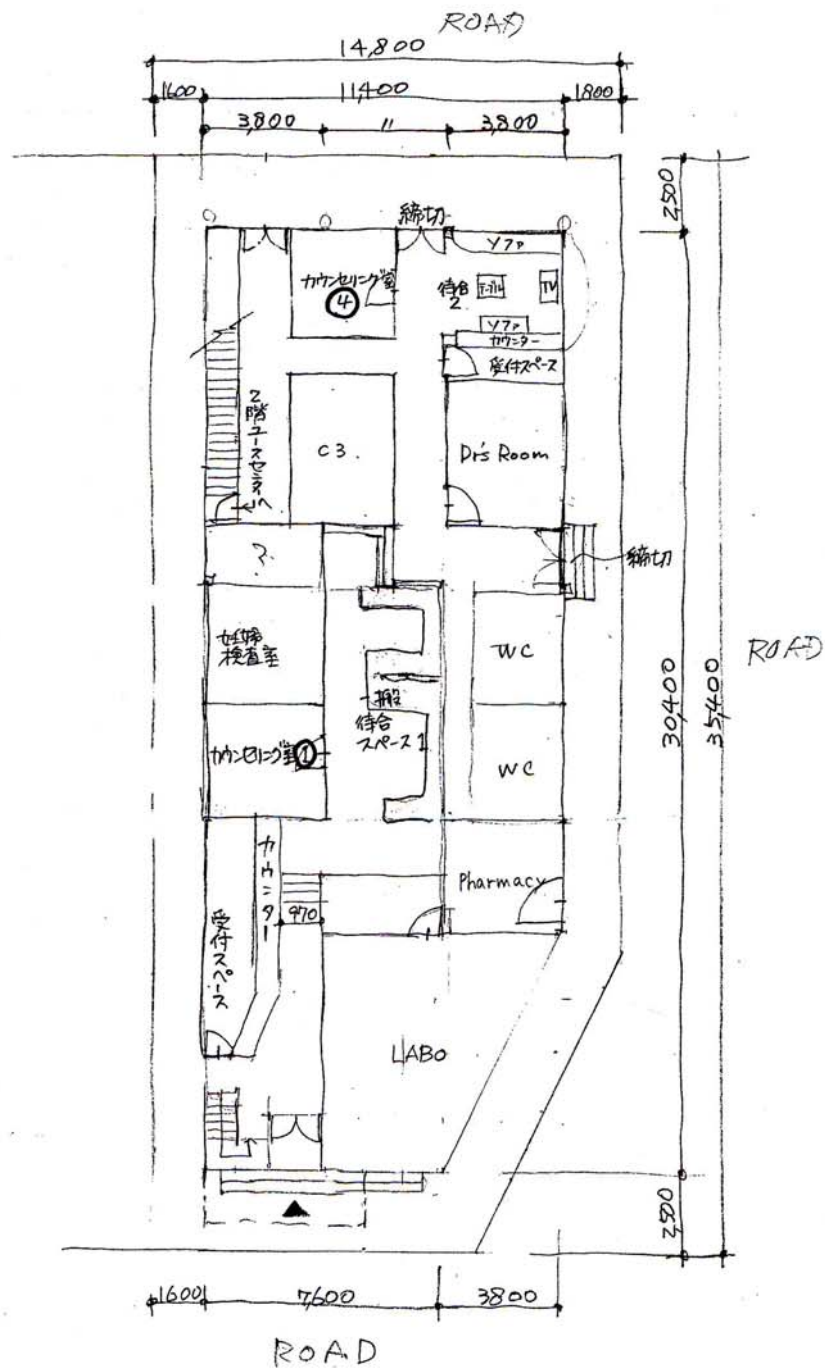
写真：カウンセリングルーム-1の様子（左）、他の診療科と共有の待合室（中央）、
2階のユースセンター（右）



・ FPAK Nakuru Youth Friendly Center [$S = 1/200$]
全体図

3/17(金)

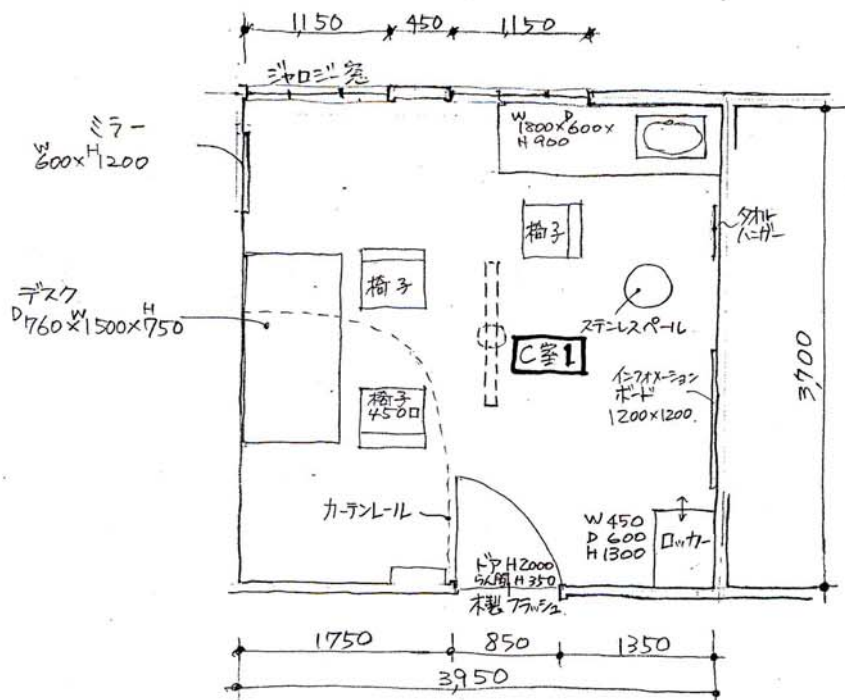
全体図



竖井

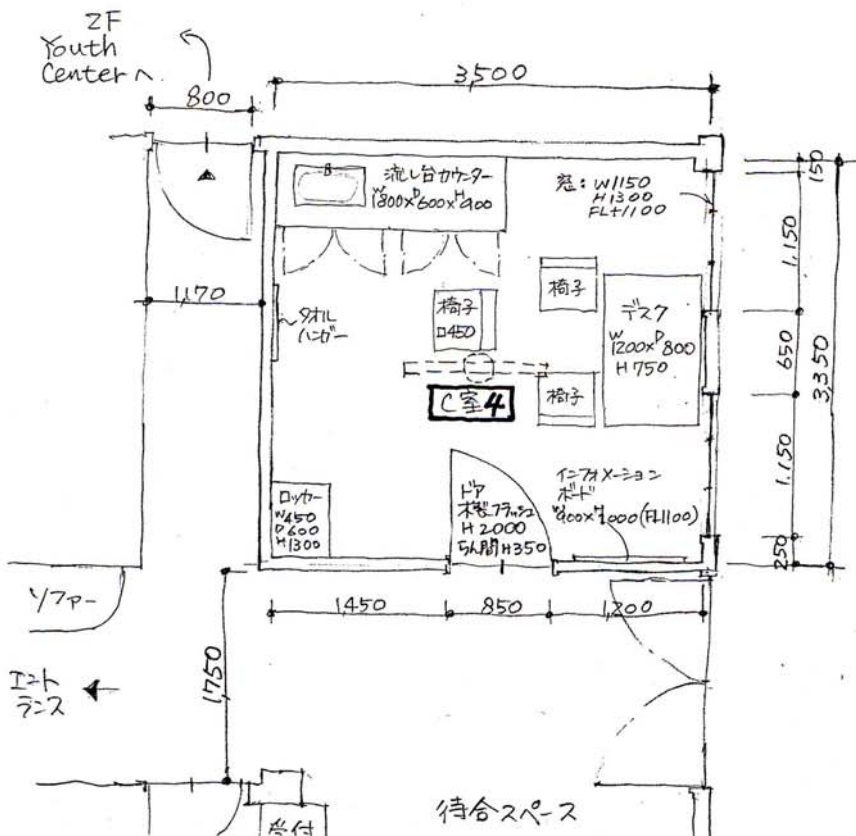
FPAC Nakuru Youth Friendly Center [s = 1/50] 102

3/17 (金)



天高 2,900

照明: FL 1本

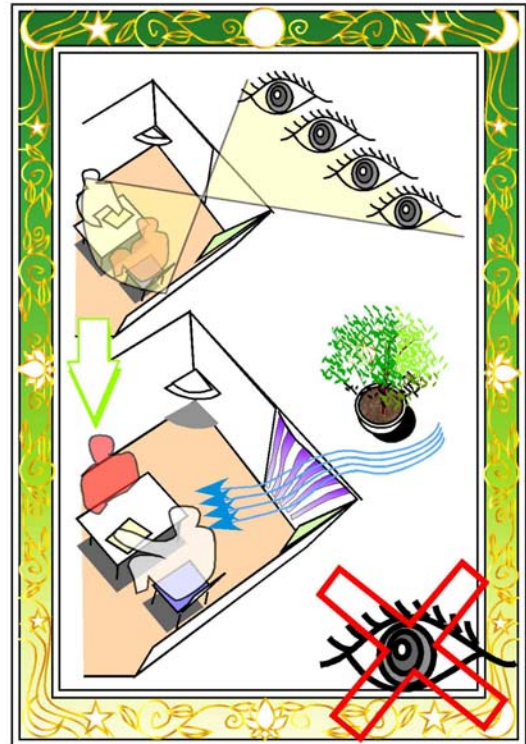
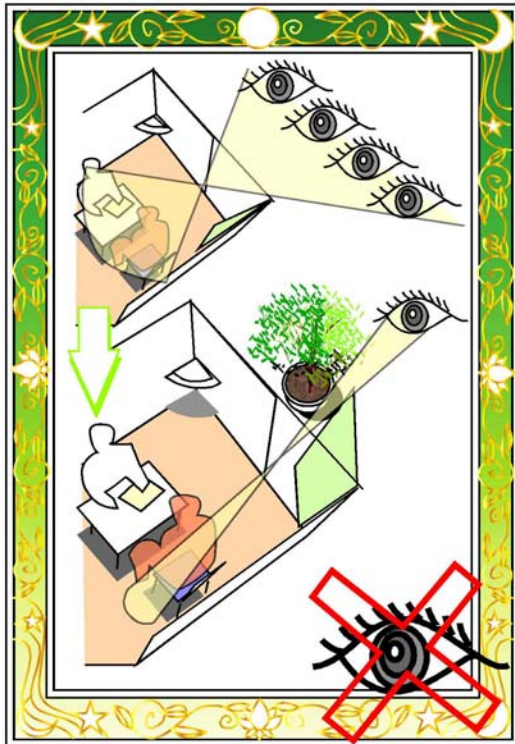


天高 2,600

照明: FL 1本

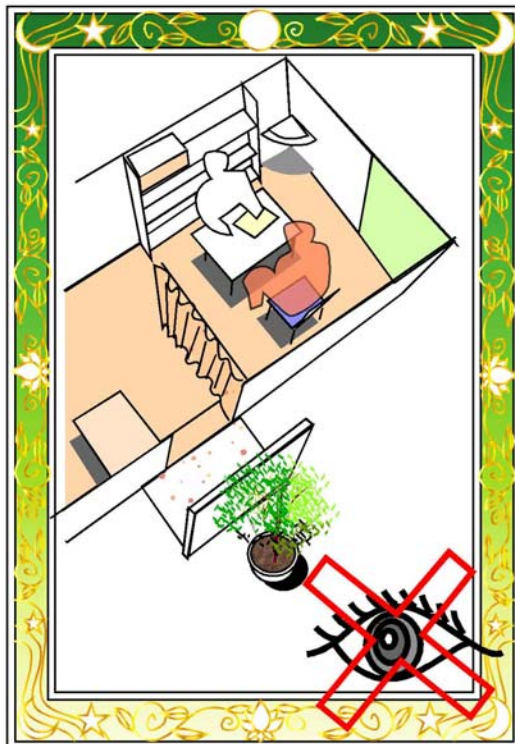
壁井

気付きカード(その2)



人の目がこわい……。

こうしたらどうだろう



■ サイト 5 Kapkures VCT Center (704-16)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building :** Detached
Location: Nakuru **Constructed :** 2001
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff: Counselor (M-1, F-5), Receptionist (0), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-15 F-16 Total 31

ナクル市街からケリチョー方面に車で30分ほどの距離に位置する。主要幹線道路からは大きく外れた場所にあり、施設周辺は水道と電気も十分に整備されておらず、周りに畑が広がる。診療所が隣接している。VCTセンターはドナー標準設計（アメリカ）とその支援により建設された。VCTセンターのスタッフは診療所の看護師を兼任している。対象となる集落の規模が大きいので、クライアント数は多くはない。

施設はまだ新しい。外壁、屋根共に金属板製であるが、内側には断熱効果を出すために発砲モルタルのようなものが塗られている。また、屋根の二重葺きによる空気層を上部の屋根の熱い空気が抜けて、棟から外に出る仕組みになっている。その為、建物内部は外部と比べ、非常に涼しい。サイト2（Nakuru PGH）同様、建物はアメリカ政府、家具は日本政府によって援助されている。

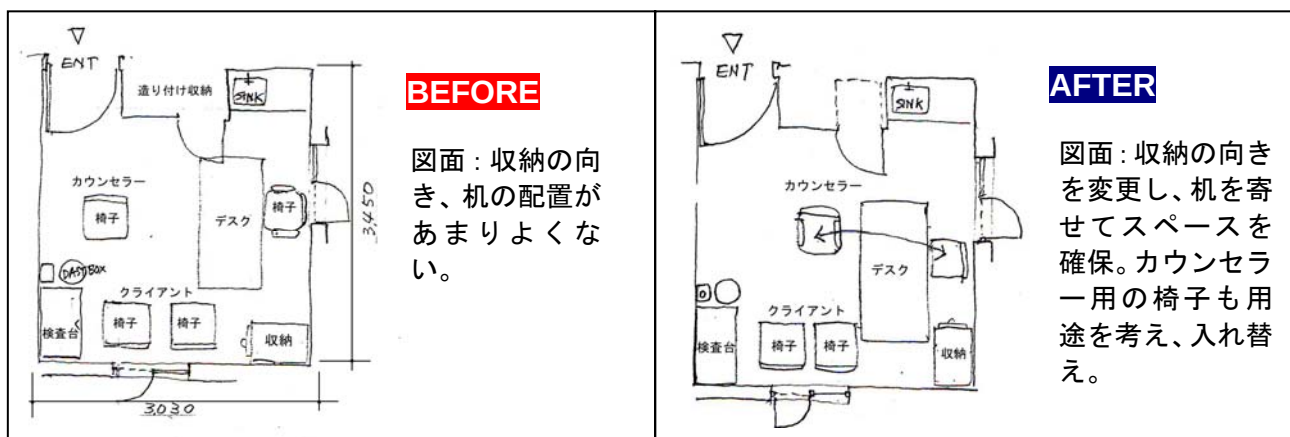


2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 9 : 家具配置変更によるカウンセラーの効果的な作業と移動を促進

家具は無造作に配置されている。カウンセラー達と協議し、カウンセラーとクライアントの双方にとって空間（部屋）の効果的な使い方について提案、改善を行った。

まずカウンセリング室1は、キャビネット開閉口をカウンセラー側に向け、机を窓側に移動することによって、シンクや収納部分の使い易さを向上させた。キャスター付きの椅子をデスクワーク用ではなく、カウンセリング中に使うことで、カウンセラーの検査、カウンセリング時の移動が円滑になった。



■事例 10 :家具配置変更によるカウンセラーの効果的な作業と移動を促進

カウンセリング室 2 は、部屋の中央に設置された机を壁に寄せることで、中央にスペースができ、カウンセラーの検査、カウンセリング時の移動が円滑になった。

		BEFORE  Photo Angle 図面：CR-2 の家具の配置変更前の平面図 写真：部屋の様子。デッドスペースが多いため、クライアント、カウンセラー共に非常に
		AFTER 図面：CR-2 の家具の配置変更後の平面図 写真：部屋の様子。部屋の空間が有効に使えるようになり、窮屈感がなくなった。

■事例 11 :パンフレットを手にしやすく

待合室は受付カウンター内で活用されていなかったパンフレットの展示棚を待合いスペースに出し、パンフレット、ポスターなどを掲示板に貼るなどして待合室の雰囲気をよくした。ベンチの配置も向かい合う形ではなく、一方向を向く配置を提案したが、壁を背にする方がケニア人には落ち着くということで、現状を維持した。

BEFORE 写真：殺風景で表示もほとんどなく、家具も十分に使われていない。	AFTER 写真：パンフレットが手に取って見られるようになり、表示なども充実。
---	--

3/20 (A) ^{III}

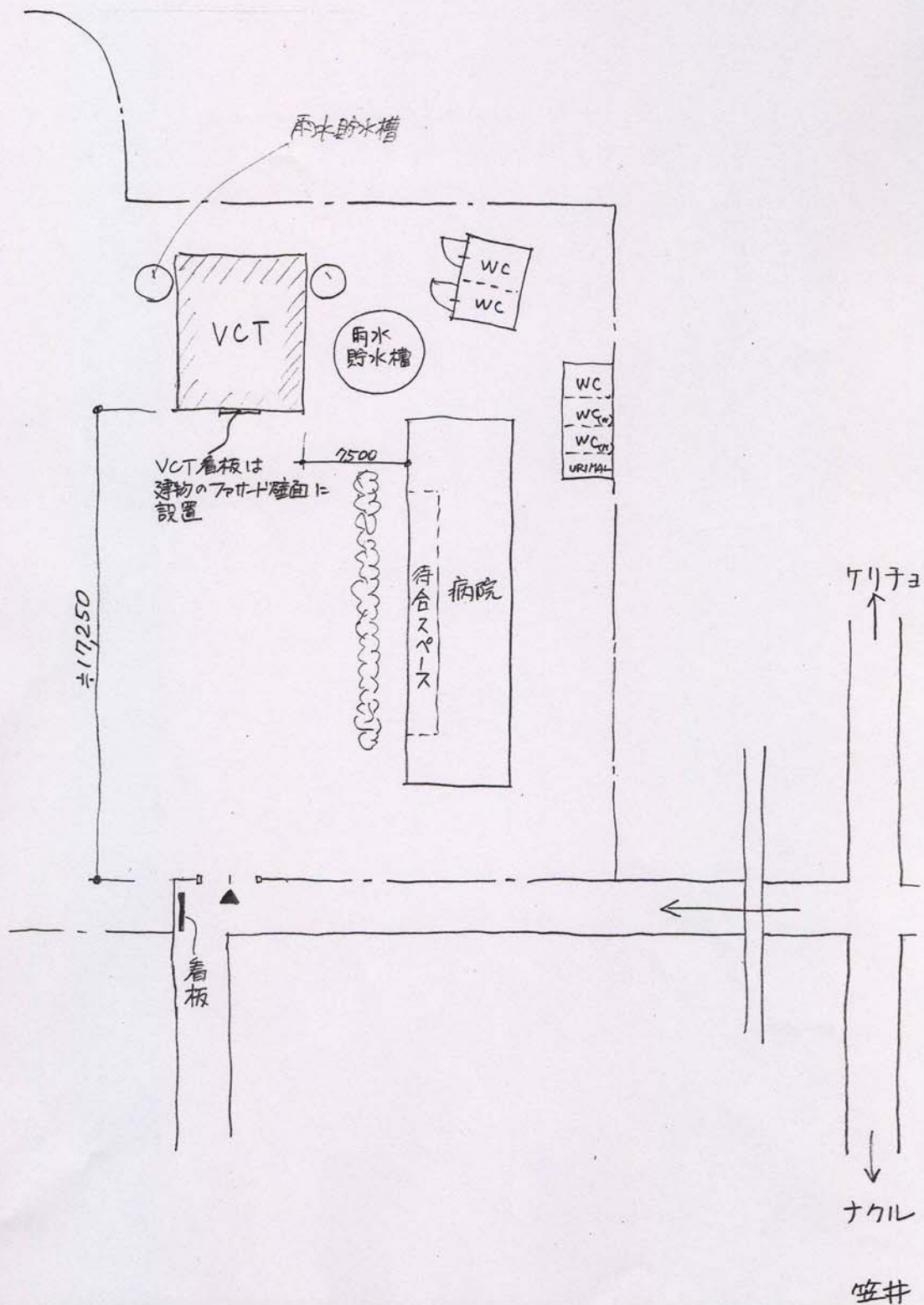
- [illegible]



ナクル
近郊

Kapkures VCT Center

113
3/20(A)



■ サイト 6 Kericho Youth VCT (702-14)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Complex
Location : Kericho **Constructed** : 2005
Opening Hours :
Weekday 8:30 am – 5:30 pm Weekend 9 am – 6 pm
Staff : Counselor (M-2, F-2), Receptionist (0), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-133 F-50 Total 183

ケリチョーの中心街、1階に郵便局が入る雑居ビルの2階にあるユースセンター内に VCT センターはある。ユースセンターの施設として、図書、TV、ボードゲームなど大変充実しており、若者たちが多数訪れている。加えて廊下を挟んだとなりのスペースにも新たな施設の増設が計画されている。若者中心にもかかわらず、VCT センターのクライアント数は多い。また、スタッフの活動に対するモチベーションの高さが伺えた。



2 建築的所見での助言、改善内容

「若者への一つの VCT センターのあり方」「家具配置の変更でクライアントのプライバシーの確保」という視点での観察を行った。

ユースセンターの入っている雑居ビルは非常に複雑に入り組んでいるので、その場所は非常に分かり難い。しかし矢印や看板など十分な表示があるので、問題なくたどり着ける。VCT センターはしっかりと間仕切りされた待合室と2つのカウンセリング室から構成されている。外部からの視線に対しての部屋や家具の配置の問題があったので、次のように家具の配置に関する改善を行った。

■ 事例 12 : 家具配置の変更によりクライアントのプライバシーの確保

リクレーション室から VCT センターに入る扉が開いた時、待合室内部がまる見えであった。また、ソファがドアに当たっていた。



BEFORE

写真：配置変更前の入り口付近の様子

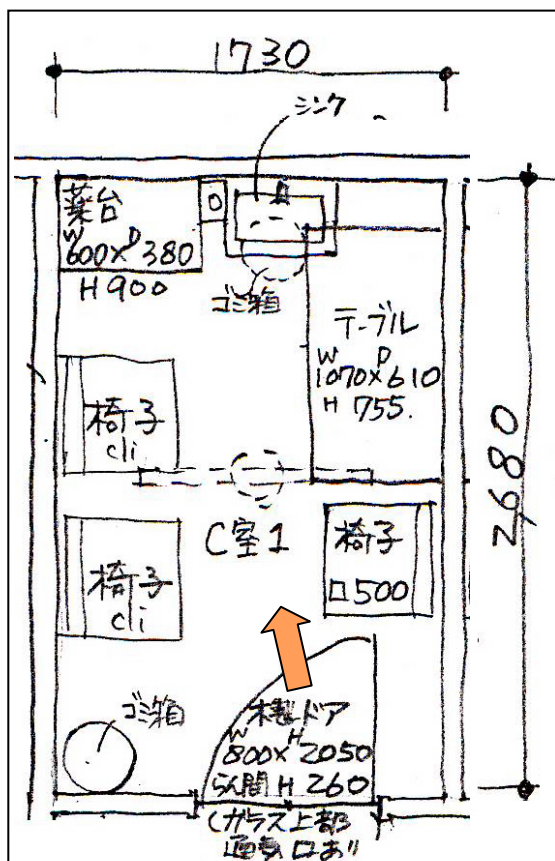


AFTER

写真：変更後の待合室の様子

■ 事例 13 : 家具配置の変更によりクライアントのプライバシーの確保

カウンセリング室1のドアが開いた時、内部が丸見えなので、家具の配置を変更した。これにより、待合室からドアが開けられても、クライアントが外部の視線にさらされるリスクを軽減することができる。本来、カウンセリング室2も同じような変更をしてもよいのだが、窓から外部の様子（役所関連の施設に大勢の人が列を成している状態）が見えてしまい、クライアントは窓を背にした方がよいとの判断から変更には至らなかった。

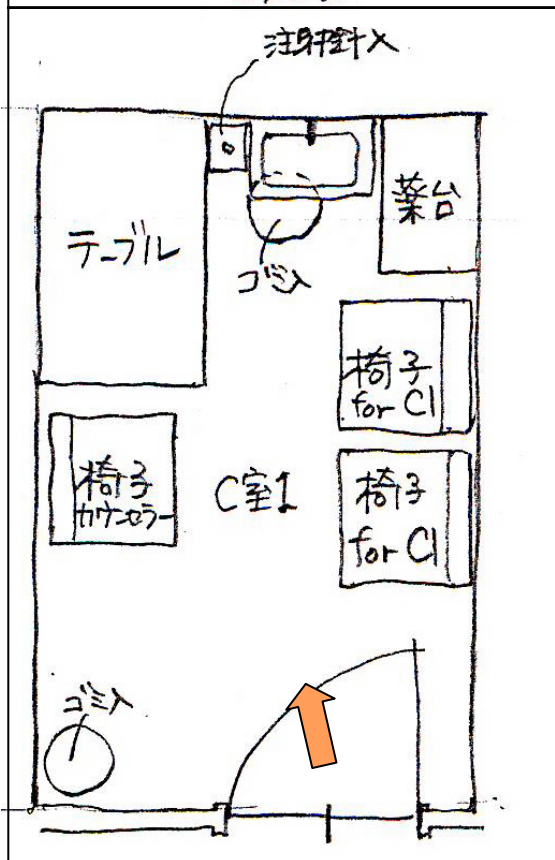


BEFORE



図面：家具の配置変更前の平面図

写真：ドアを開けたときの CR-1 の内部の様子。半分も開けてしまうと、クライアントの姿は外部にさらされる。シンクの上の鏡には紙が糊付けされている。（「いざ」時、扉に掛かっている扉に目をつける）



AFTER

図面：家具の配置変更後の平面図

写真：ドアを全開にでも開けない限り、クライアントは外部にさらされることはない。

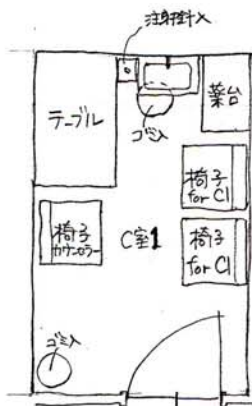


kericho Youth Center
(ホストa建物内 1st S.)

[S=1/50]

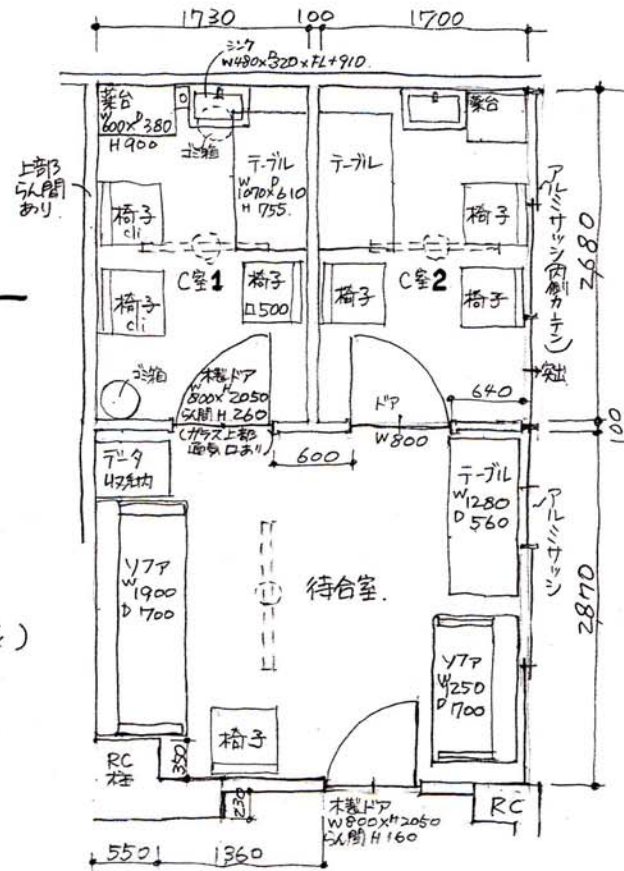
131

3/21(火)

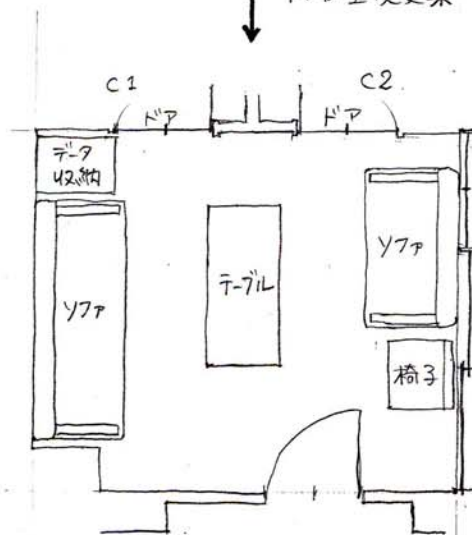


カウンティング室1 変更案

- 内部 : 内壁
 カウンティング室 1, 2
 : パーティクルボード (白塗装)
 待合室
 : パーティクルボードに
 バニヤ材 (木目調)
 : 天井 : RC 塗装
 : 床 : Pタイル



待合室 変更案

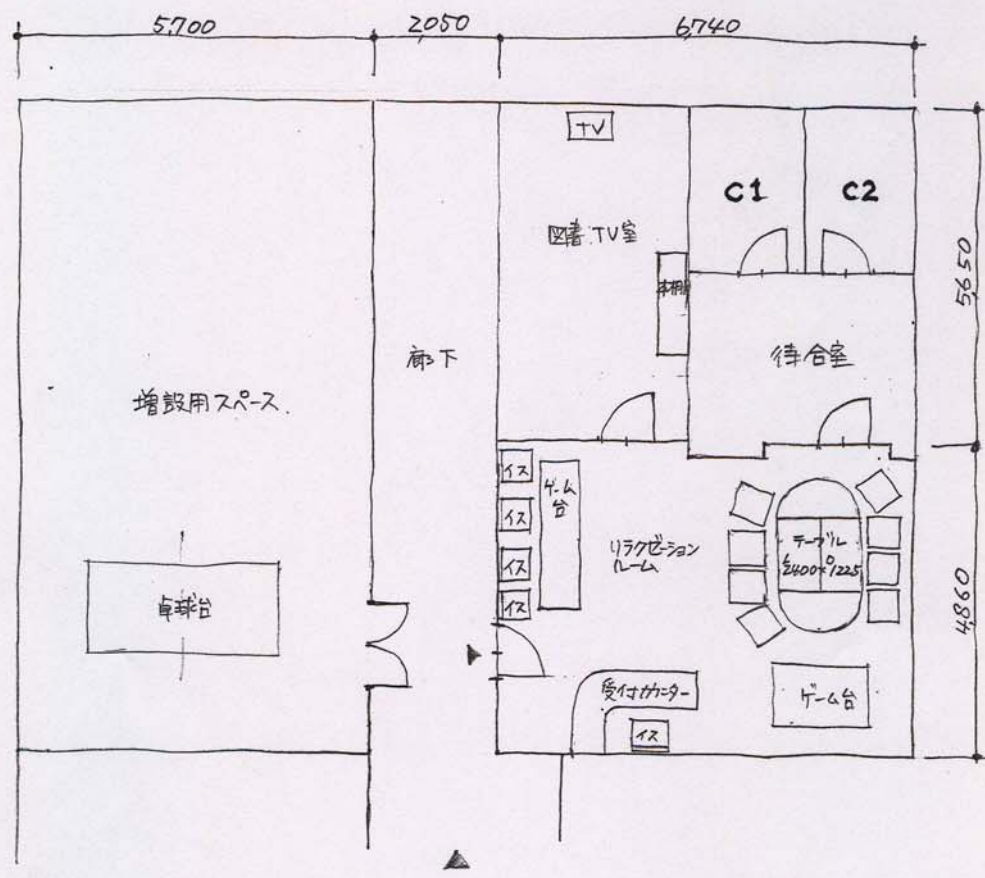


笠井



Kericho Youth Center [S=1/]

132 3/21(火)



笠井

■ サイト 7 Tenwek Hospital VCT Center(707-4)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location : Tenwek **Constructed** : 2003
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (M-1, F-3), Receptionist (0), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-37 F-36 Total 73

ボメットから車で20分ほど山間の道を抜けたところにある海外 NGO によって運営されている総合病院の敷地内に立つ。町から離れた場所にあるにも関わらず、病院の施設は非常に充実している。そして清潔であり、しっかりと運営されている印象。小規模な VCT センターではあるが、スタッフの意識の高さが伺えた。



2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 14 :細かい配慮とプライバシー確保の好例

ここではクライアントに対する細かい配慮と、プライバシー確保が十分なされており、助言、改善活動には至らなかった。

この VCT センターの立地は病院敷地の非常に奥まった場所にあり、場所を示すサインはあるものの少し分かり難い。しかしながら、建物付近に一般患者の往来などもほとんどないことから、非常に静かで、他人の視線が気になる心配もないので、クライアントのプライバシーは守られ易い環境である。

待合室は受付も兼ねており、椅子も多く用意されている。

また、ポスターなどの掲示物も充実している。

カウンセリング室には待合室側からの入り口としてのドアと反対側にあるドアと二つある。クライアントは入り口ドアを背にして座り、カウンセラーは反対側のドアを背にクライアントと向き合って座る。万が一、ドアが開いても、クライアントの顔は外部に曝されることはない。またカウンセラー側にもドアがあるのは、クライアントからの万が一の暴力に備えて（逃げる為）とのことであった。

そして、カウンセリング室にあるコンドームの使用説明に用いる木製のペニスの模型にレース生地が掛けてあり、クライアントへの気配りが見られるセンターであった。

VCT センターの様子

待合室
(右)



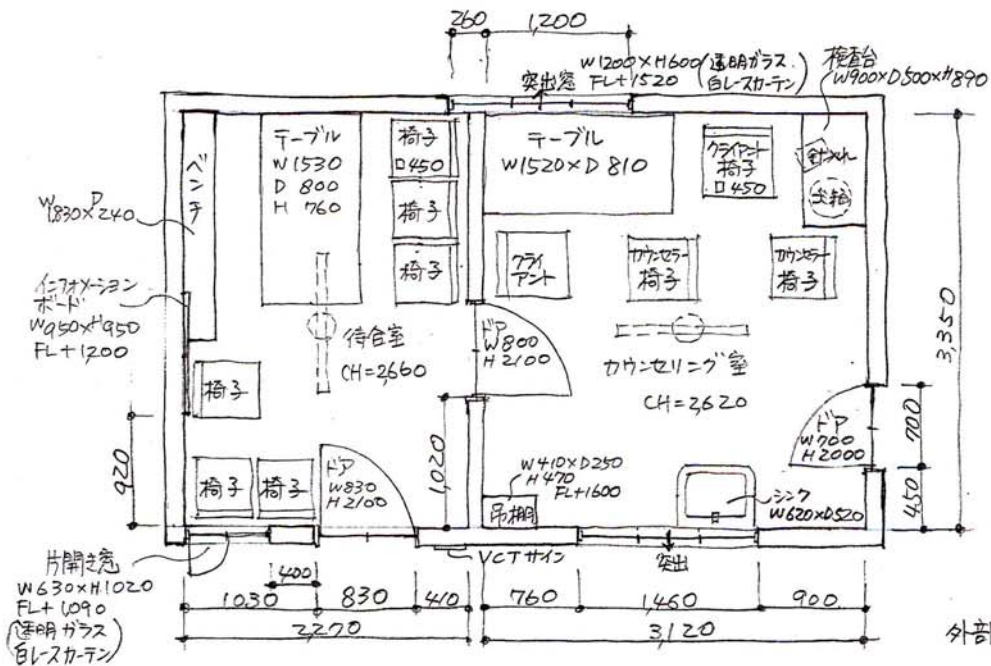
カウンセリング室



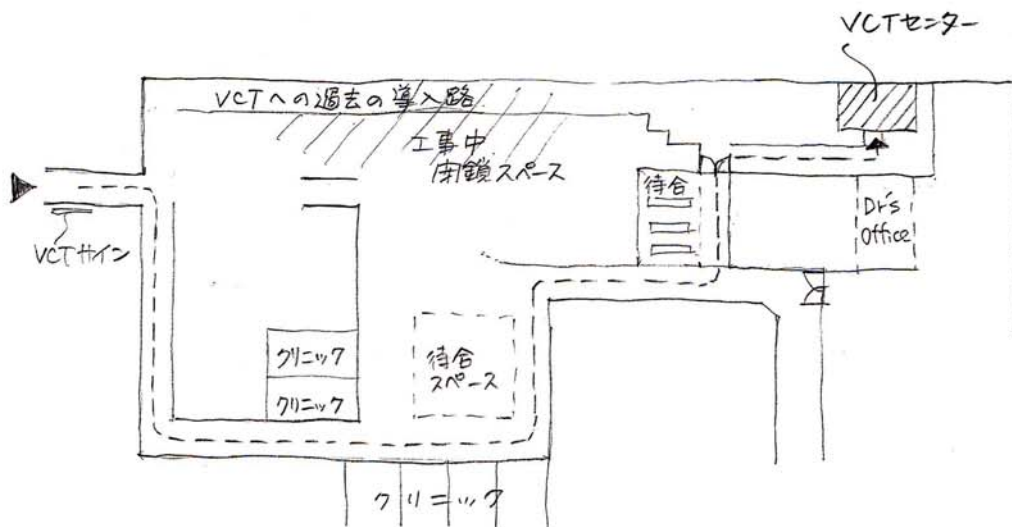
レース生地のかけられたペニスの模型



171
 1) Bomet Tenwek Health Center VCT Site [5=1/50] 3/28(火)
 (教会系=病院内)



外部: 屋根: 波形状鋼板
 外壁: RC
 内部: 内壁: RC 珪藻土
 天井: ベニヤ (白)
 床: RC 金網仕上
 ドア: 木枠



笠井

■ サイト 8 Kisii Central District Hospital VCT Sit (601-1)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Complex
Location : Nairobi **Constructed** : 2004
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (F-5), Receptionist (F-1), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-23 F-32 Total 55

VCT センターはキシーの中心街の外れに建つ県立病院内、出入口ゲートのすぐ右手の管理棟として独立した建物の一面にある。街中の為に少々手狭ではあるが、病院自体に活気があり多くの人が入り出していた。スタッフは初め、カウンセリング中ドアは開けないという理由から難色を示したが、クライアントの視点『開くかもしれないという不安』を理解すると積極的な姿勢を見せた。

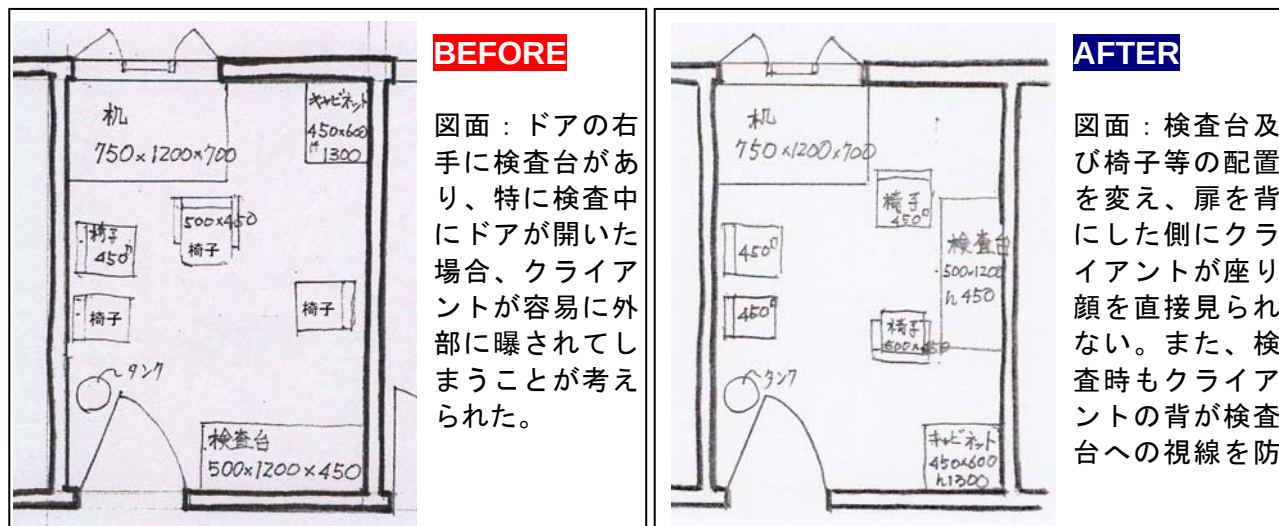


2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 15 :家具の配置変更による「クライアントのプライバシーの確保」

敷地境界線上の外部からは植込み等で建物が目隠しされプライバシーが良く確保されている。間取りは外からの入口近くに受付、待合室があり、廊下に沿ってカウンセリング室が二室ある。カウンセリング室2は流し台が固定されている為に改善は出来ず、誤って開けた扉からクライアントの顔及び検査状態が見えてしまう。

カウンセリング室1に関して、手前の部屋の為に誤りで扉を開けられる確率がカウンセリング室2よりも高い事を考慮し改善を提案した。

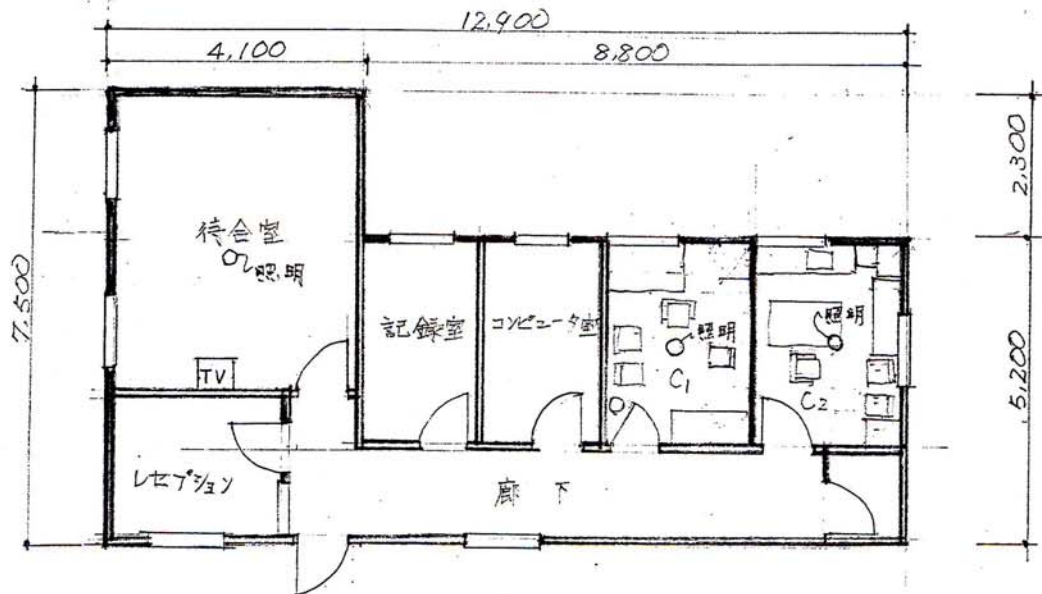


VCT センターの様子 : CR-2 内の様子 (左下) 県立病院の出入口ゲート付近の様子 (右上) CR-2 の外側の植え込みとフェンス (右下)

Kisii Central District Hospital VTC site [S=1/100, 1/50]²³¹
 キシイ近郊

内部
 天井: ボード ベンキ
 壁: モルタル ベンキ
 床: モルタル ベンキ
 窓: ジャロジー 透明ガラス

外部
 屋根: 波形鉄板
 外壁: モルタル V.P



明坂

■ サイト 9 Nyaweri Deaf VCT Center (602-13)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location : Kisumu **Constructed** : 2004
Opening Hours : Weekday 8am – 5pm Weekend 9am – 4pm
Staff : Counselor (M-1, F-3), Receptionist (F-1), Other (1)
Number of Clients (Monthly Average) : M-69 F-48 Total 117

キスムの郊外、州立病院の敷地の隣に位置する。ケニアに4ヶ所ある聴覚障害者用の VCT センターのひとつである。手話や筆談、読唇術（口の動きを読む方法）等で聴覚障害者とコミュニケーションをとり、カウンセリングができるスタッフが常駐している。また、州立病院からの紹介も含めて、聴覚障害者以外のクライアントにも対応している。若年層が多く、わざわざ遠隔地からくるクライアントもいる。



2 建築的所見での助言、改善内容

州立病院の隣接地ではあるが、大通りからいくぶん路地を中に入った所に位置し、あまり目立たない静かな環境にある。敷地は広々とした中にコンテナ改造型の施設が敷地奥に建ち、隣接した学校側との境界線は植込みにてプライバシーを確保している。コンテナ施設のために中央に受付・待合室で左右がカウンセリング室となる。受付・待合には、ポスター等が整然と掲示され施設の目的、活動が明確に分かる。

VCT センターの様子

■センター情報が表にある（良い例）

コンテナの壁は紫地にペイントされ、黄色の文字で営業時間等が明記されていた



■分かりやすい情報の掲示（良い例）

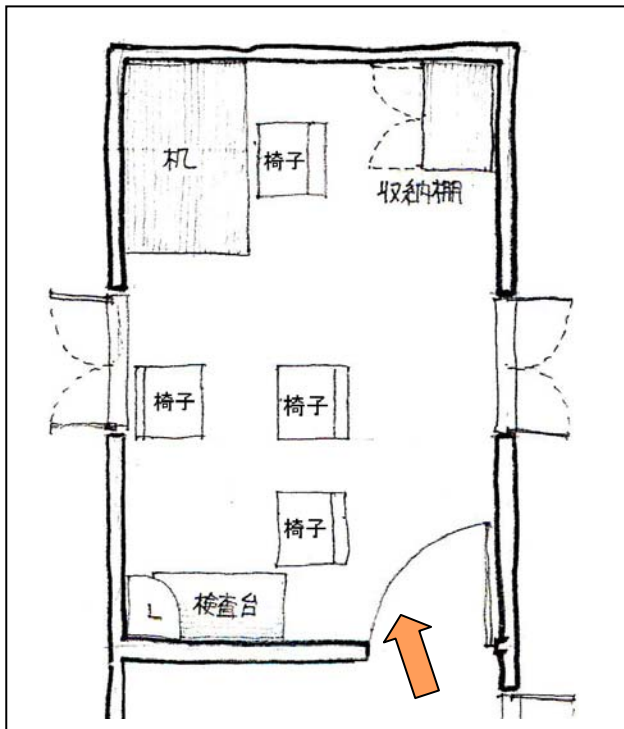
受付・待合室内の様子（右）。



■事例 16 :家具の配置変更による「クライアントのプライバシーの確保」

カウンセリング室1が扉の誤り開放により、クライアントの顔が外部にさらされる。特に聴覚障害のあるクライアントとカウンセラーが室内に居たとき、ノック等の手段で室外から中にドアを開いたことを知らせることが難しい。このため、ドアが椅子に当たった「衝撃」が聴覚障害者にも伝わるようにした。

家具を移動すれば、クライアントがさらされるリスクを最小限に止めることができることを話し合い、スタッフ主導で机と椅子・収納棚の位置を入れ替え扉の開いた視線からクライアントが直視出来ないような配置に改善した。

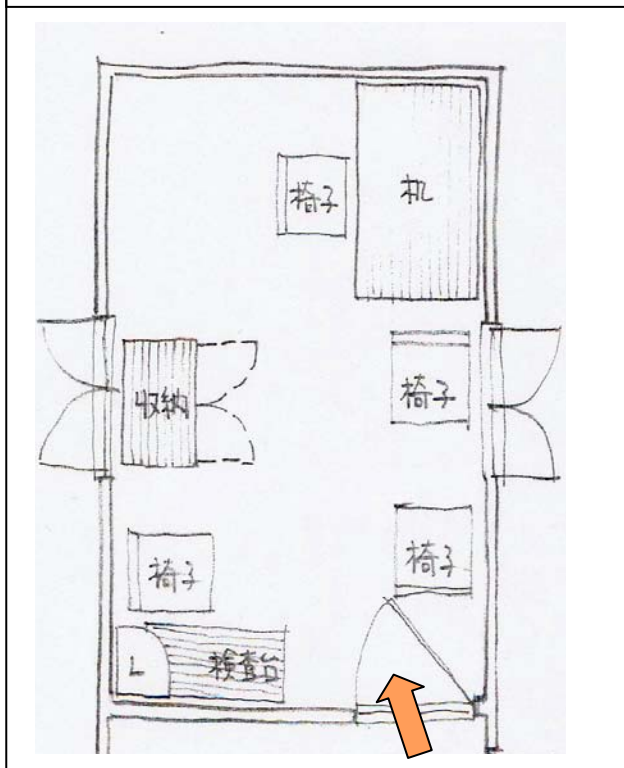


BEFORE

Photo Angle

図面：クライアントは座る位置を選べるが、ドアの取り付け位置の関係上ドアが開いた場合、部屋の内部が（どの位置に座っても）見え易い。

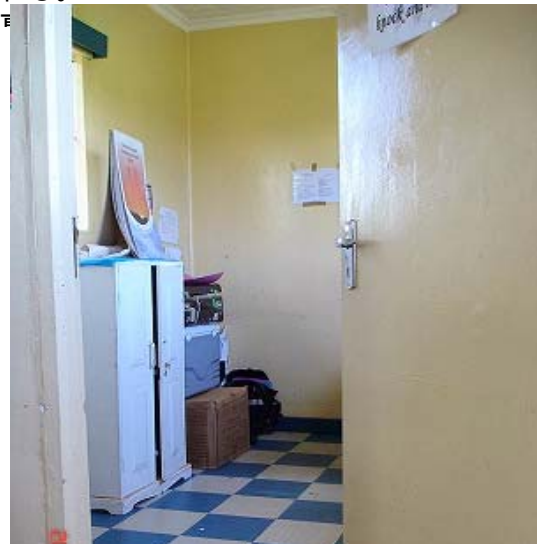
写真：ドアが開いた場合の見え方。



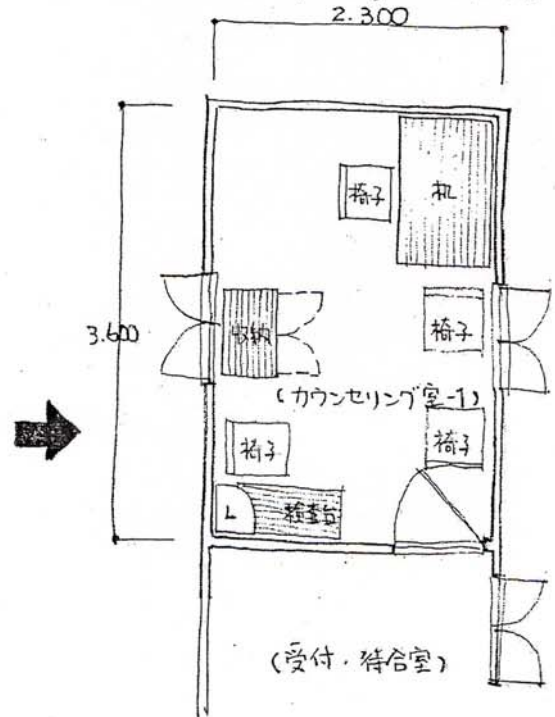
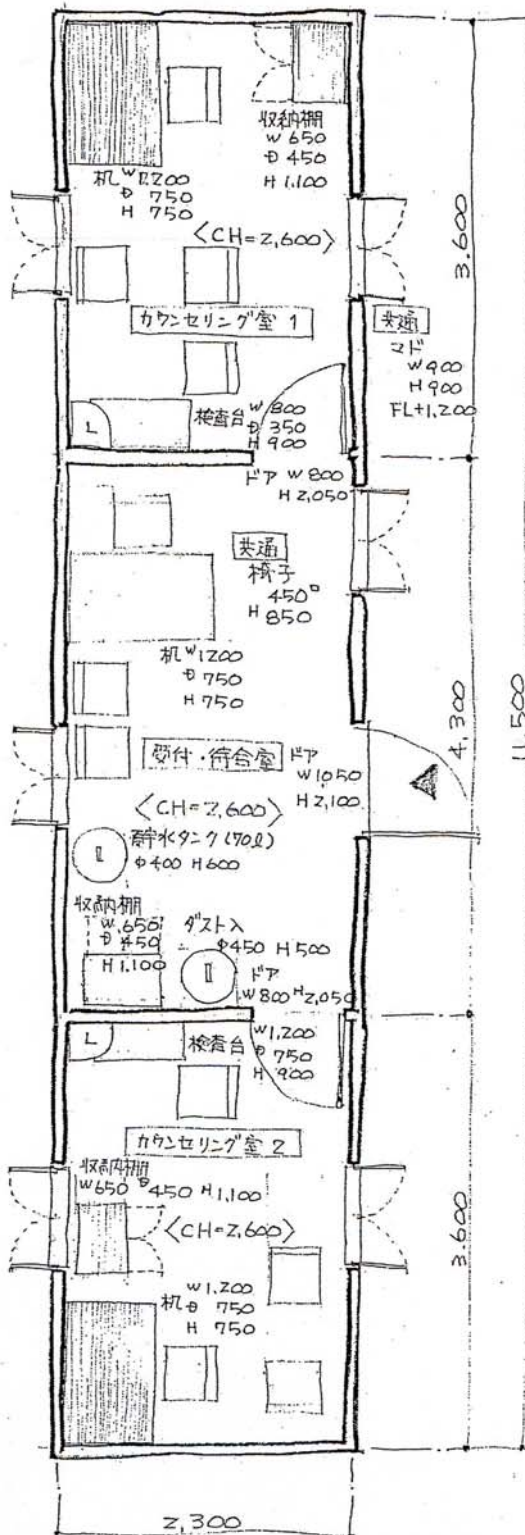
AFTER

図面：椅子は窓際に配置。椅子に座った状態では窓外部から顔は見えない。ドアが開いても椅子がストッパーとなり、同時に衝撃が聴覚障害者へも伝わる。

写真



キヌム 近郊 Nyaweri Deaf VCT Center [S=1/50] 3/27(月)
(変更前)



・クライアントに
席を選ばせる

・改修はC1のみ。

内部：天井：ボードペンキ(白)

壁：ボードペンキ

床：プラスチックタイル貼
(青、白、市松模様の)

カーテン Box

カーテン (洗濯中)

天井照明器具なし

時計 各1ヶ所有り

壁厚：内仕切 7=100

外周 7=120

外部：屋根：波形鉄板葺

壁：コンテナ仕様ペンキ
(VCTカラー)

平田

気付きカード(その3)



相談ができる場所ができた。
でもそこにいくと……みんなに見られて、聞かれて、あとで今までよりもっとつらい日々が待っていた。



■ サイト 10 ARC Tivoli VCT Center (602-06)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location : Kisumu **Constructed** : 2001
Opening Hours : Weekday 8 am – 5 pm, Weekend 9 am – 3 pm
Staff : Counselor (M-5, F-5), Receptionist (F-1), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : Total 1,300

キスムの街の中心にあるビルの中にテナントとしてリソースセンターが入っており、VCT センターはその一つの取り組みとして運営されている。遠隔地巡回 VCT サービスやカウンセラーへの指導者の派遣等も行っており、スタッフの意識は高い。今回、使用中の部屋もあった為、改善できたのは一室であったが、今後、他の部屋もスタッフによる検討が期待できる。



2 建築的所見での助言、改善内容

当 VCT センターは、共用廊下から入って受付、待合室があり、その奥にカウンセリング室が 8 室ある市街地型施設である。カウンセリング室の広さと備品は共に十分で、清潔である。クライアントも多く待合室は混雑している。待合室は、カウンセリング室とは位置的に離れている為、プライバシーは確保出来ている。各カウンセリング室の検査キット台が壁側に固定されている為、家具配置等の改善が難しかった。

VCT センターの様子

CR-2 の様子。大通りに面しているが、ビルの 2 階の為外部からの目は気にならない。一面窓であり開放的な雰囲気



CR-6 側の 3 室に窓は無いが、蛍光灯で室内は明るい

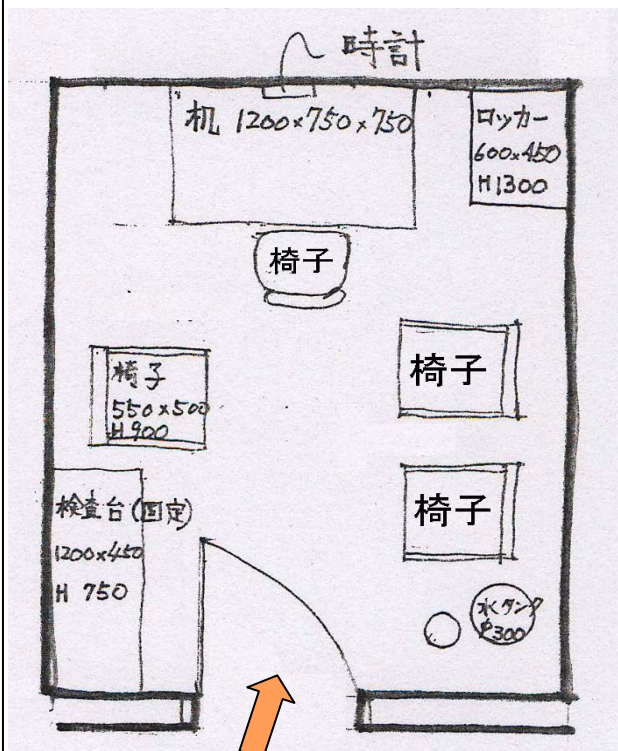


■事例 17 :家具の簡単な配置変更による「クライアントのプライバシーの確保」

BEFORE

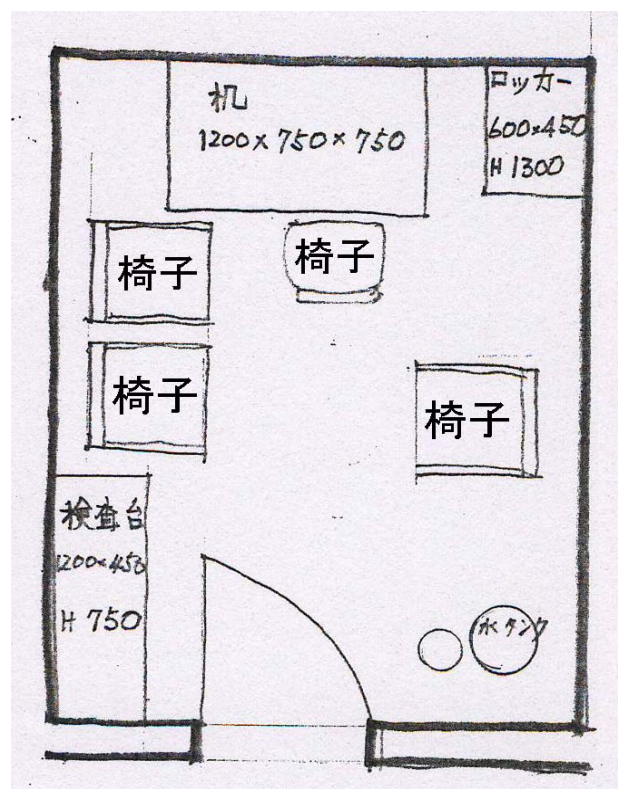


図面：水タンクの横の並列している椅子(二つ)がクライアント用。対面する椅子(一つ)がカウンセラー用。
写真：ドアが開いた場合の見え方。



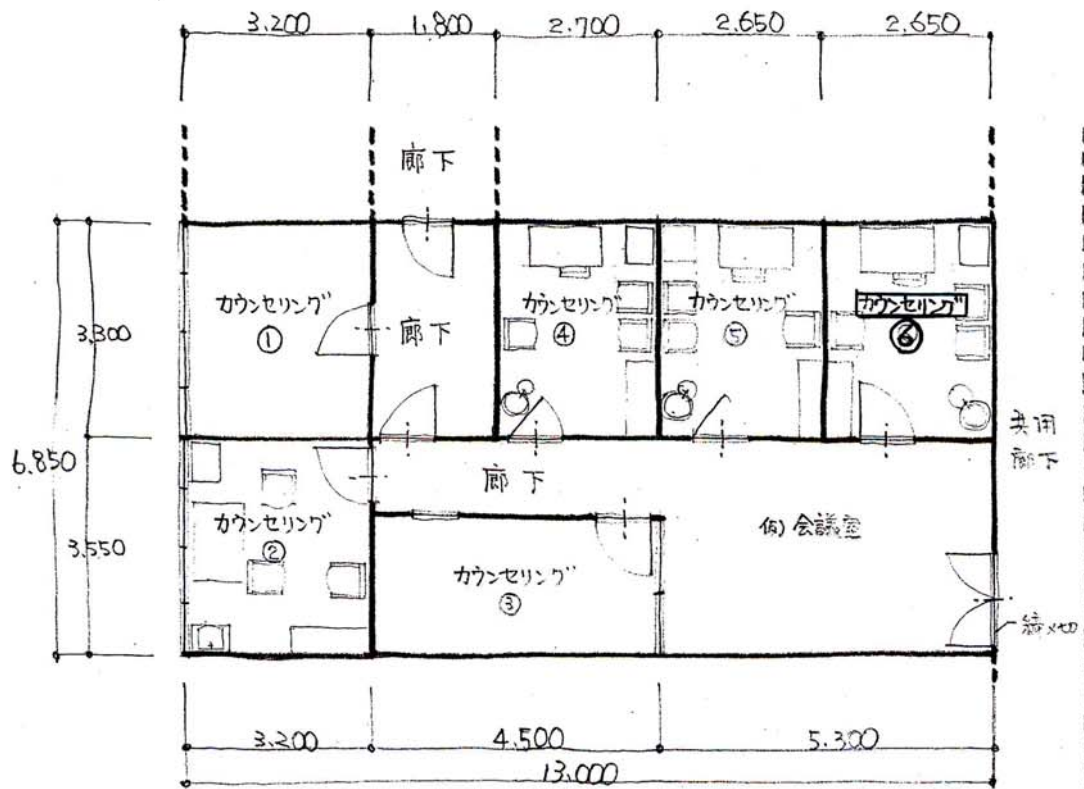
AFTER

図面：椅子を逆に配置して、カウンセラーとクライアントの位置を入れ替える。



写真無し

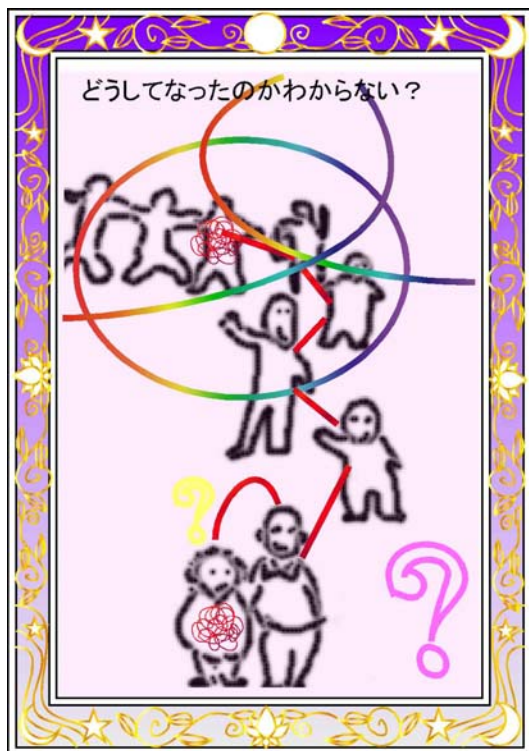
ARC Tivoli VCT Center [S=1/100] 28/ (2) PM 28/



共用ビル 2階部分 外部仕上 壁: モルタル塗 塗装

明坂

気づきカード(その4)



■ サイト 11 Bondo District Hospital VCT Cente (611-1)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Detached
Location: Bond **Constructed**: 2003
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Staff : Counselor (M-1), Receptionist (0), Other (2)
Number of Clients (Monthly Average) : M-44 F-50 Total 94

当 VCT センターはボンドの町から離れ、広々とした県立病院内にある。それは、周りには木々が茂り独立した建物で、接近した施設棟は無く、静かである。市場が開催される日にクライアントが集中している。



2 建築的所見での助言、改善内容

VCT センターの様子

県立病院のゲート付近の様子



VCT センター周辺



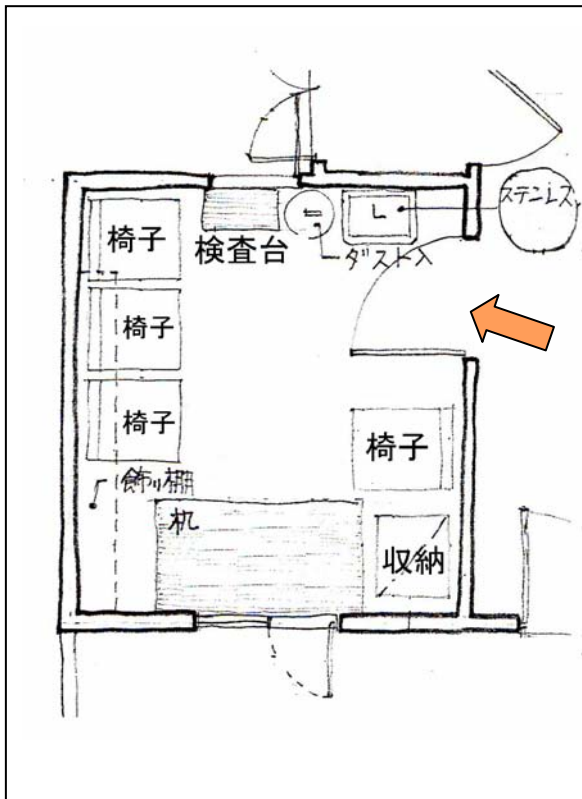
ポーチから待合室を覗いた様



■ 事例 18 : 家具の配置変更による「クライアントのプライバシーの確保」

外部待合的なポーチ部分から室内に入った所に受付、待合室がある。待合正面にカウンセリング室が 1 室、受付奥には職員宿泊用の仮眠室がある。カウンセリングのドアが解放された場合、待合からクライアントが直視できる位置に椅子が並んでおり、検査キット台も視線（検査への「恐れ」を増す）に入る。また、手洗い器が室外に配置されおり、カウンセラーは検査後手を洗う為に室外にでている。その度にドアの開閉が行われ、家具の配置的にも待合室からクライアントが容易に見えてしまうこともあり、クライアントのプライバシーに大きな課題を残していた。

家具の配置を調整するだけで、容易にクライアントのプライバシーを守る環境が確保できることを話し合った結果、机・ロッカー・椅子等を入替、クライアント用の椅子及び検査キット台がドア開放の背側に来るように移動した。それによりドアの開放視線はカウンセラー側が見えるように変えた。

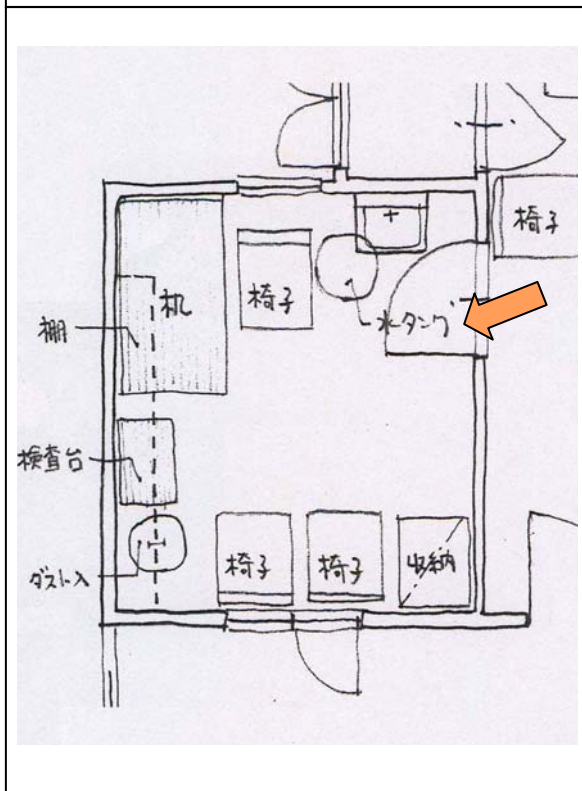


BEFORE

Photo Angle

図面：クライアントは座る位置を選択できるが、検査台も入り口付近にある為、クライアントが待合にさらされやすい配置。（ドアに近いステンレス製手洗いは使用不可）

写真：待合の椅子に座った目線で、ドアが開いた場合の様子。カウンセリング室の外に手洗い用の水タンクがある。



AFTER

図面：水タンクを室内に入れ、カウンセリング中ドアを開ける必要がなくなった。検査台は部屋の奥に移動。ドア付近の回転椅子がカウンセラー用。

写真：人が座っている椅子がクライアント用で、ドアが全開しなければクライアントがさらされることはない。



キヌム
近郊

Bondo District Hospital VCT Center 3/29 (水) ^{30/1}

内部：天井：ボード ペンキ (白)

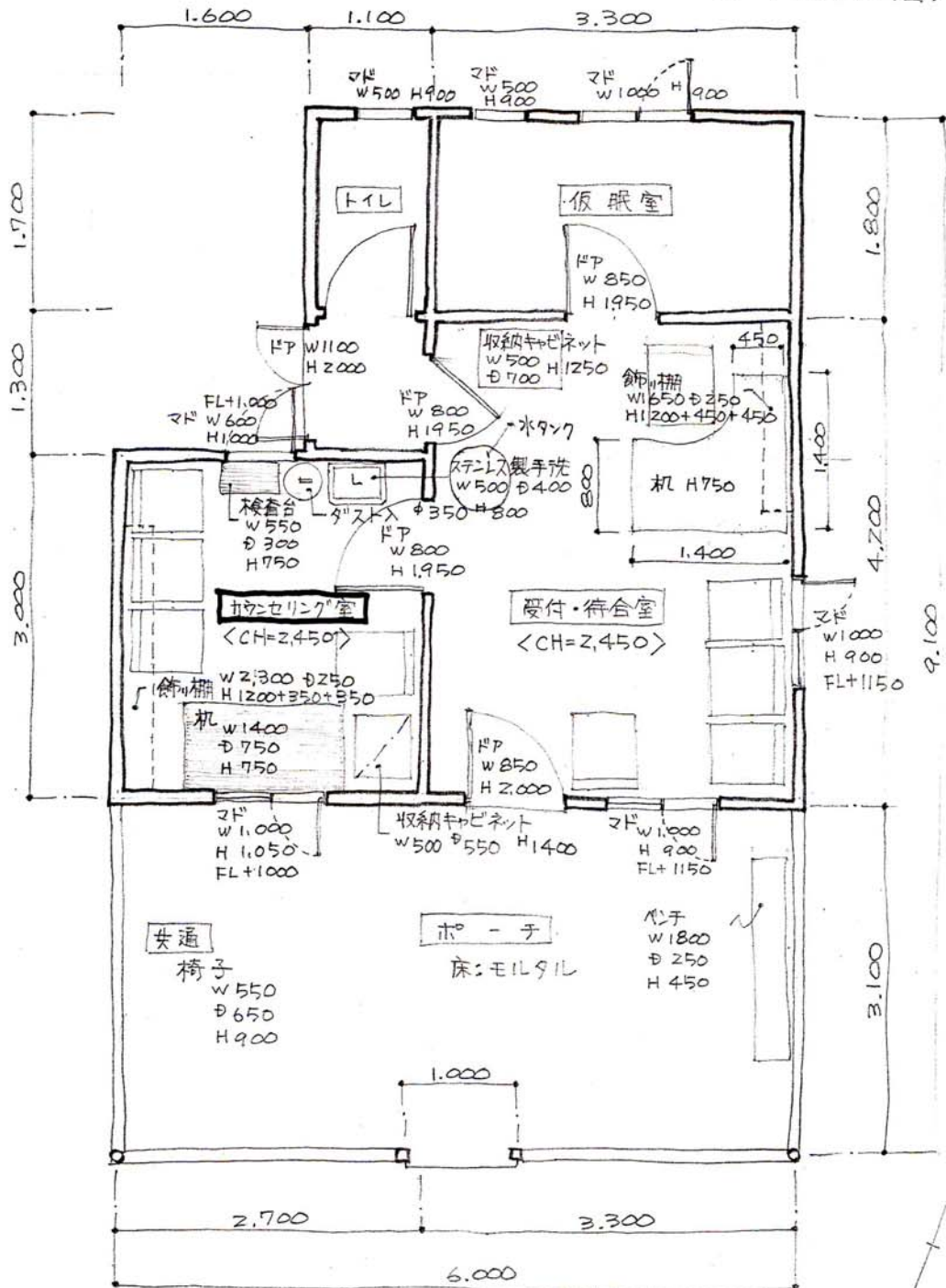
[S = 1/50]

壁：モルタル ペンキ (ベージュ)

外部：屋根：波形鉄板葺 (赤)

床：モルタル

壁：モルタル (白)



7.10

■ サイト 12 Getembe Hospital VCT Center (601-8)

1 概要

Date of Visit : March 2006 **Type of Building** : Sharing
Location : Kisii **Constructed** : 2005
Opening Hours : Weekday 8:00 am – 5:00 pm
Sat. 8:00 am – 4:00 pm Sun. 8:00 am – 2:00 pm
Staff : Counselor (M-1, F-2), Receptionist (F-1), Other (0)
Number of Clients (Monthly Average) : M-115 F-100 Total

VCT センターは、キシーの中心、街の大通りに直接面した私立病院内にある。近隣に大学があり、学生を中心とした若年層のグループの利用が多い。VCT センターのスタッフ数や部屋数は少ないが、週末も診療を行っている。キシーの町にある三つのサイト（県立病院を含む）は、クライアント数に対応しきれない場合、互いに連携（紹介）している。このサイトは、有料であるにもかかわらず、クライアント数は県立病院を大幅に上回っている。



2 建築的所見での助言、改善内容

■ 事例 19 :くつろいだ雰囲気と、優良な「動線」デザイン施設

次頁の全体見取り図のように、入口ゲート→棟入口→受付待合→カウンセリング室、そして出口→ゲートに移動するクライアントの動線が完全なる一方通行で流れており、今回調査中では、最も「プライバシー動線」を考慮している施設であった。

受付待合室こそ独立してなかったが、カウンセリング室は 1 室で広さも十分確保され、室内にはソファが置かれ、くつろいだ雰囲気で相談できるような部屋である。その窓にはきちんとカーテンが吊られており外部からの視線を防いでいた。他センターと異なり、出口部近隣にも簡素ながら木製の長椅子が設置されており、カウンセリング終了後ひと休みし気持ちを和らげることが出来るような配慮のようである。

VCT センターの様子

街中から通り越しの病院のゲート



カウンセリングの右手のドアが出口で、入口とは別である



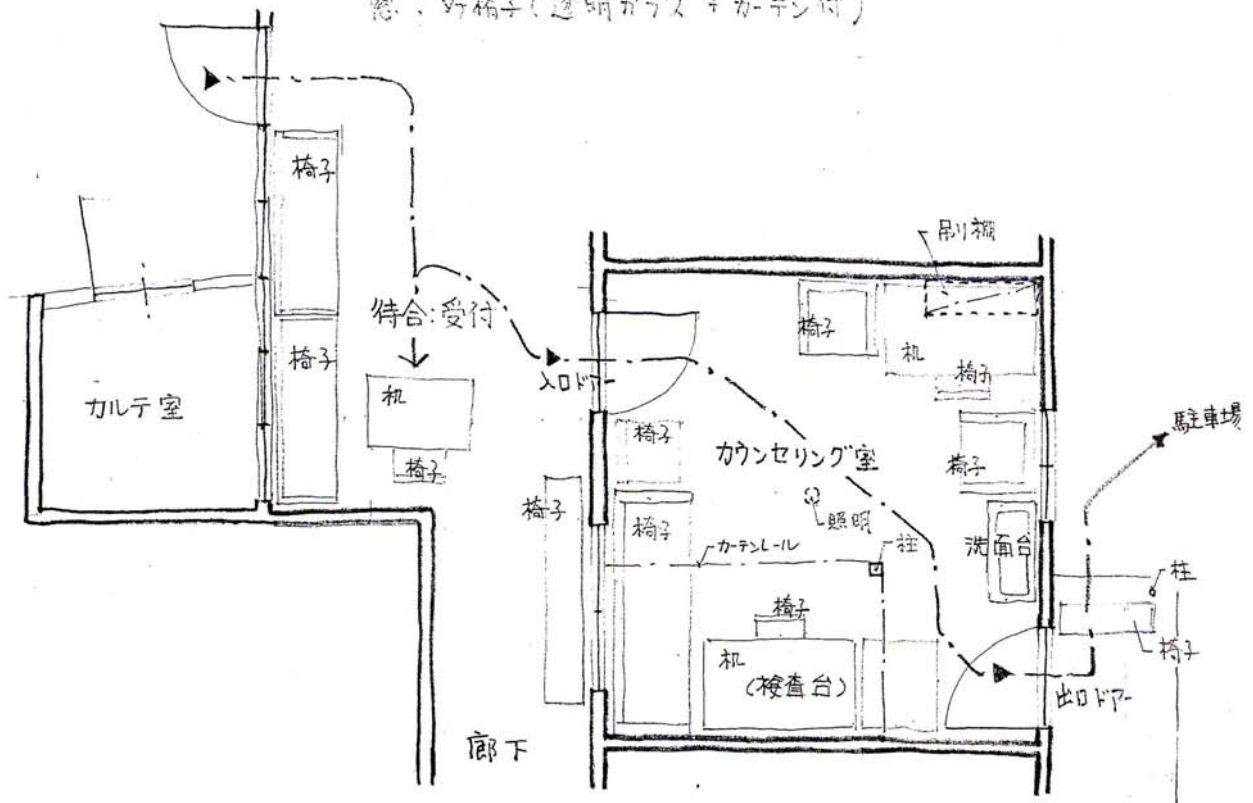
駐車場から見たカウンセリング室の出口付近



キシイ Getembe Hospital VCT [S ≡ 1/50]

3/21 (火) P.M

社上) 内部
 天井: ボード貼 塗装仕上 (白)
 壁: モルタル塗下地 塗装仕上 (ブルー)
 床: モルタル塗下地 塗装仕上
 窓: 鉄格子 (透明ガラス + カーテン付)



※ 動線が一方通行になっている [S =]

